

MR304/MR404/MR504 シリーズ
設定コマンド仕様書

オムロン株式会社 周辺機器事業部

2006年6月26日

Rel. 1.31

目次

1. 本仕様書について
2. IP 設定コマンド
3. 接続相手先設定コマンド
4. 本体設定コマンド
5. ユーザ設定コマンド
6. WAN ポート設定コマンド
7. DMZ ポート設定コマンド
8. IPsec 設定コマンド
9. IPv6 設定コマンド
10. DynamicDNS 設定コマンド
11. MAC アドレスフィルタ設定コマンド
12. アプリケーション登録設定コマンド
13. ログ設定コマンド
14. UPnP 設定コマンド
15. スケジュール設定コマンド
16. SNMP 設定コマンド
17. その他コマンド

1. 本仕様書について

本仕様書は、MR304/MR404/MR504 シリーズ（以下、本製品とする）の設定コマンドに関する仕様書です。設定コマンドは本製品の設定ページ、コンソールポート、TELNET を用いて本製品の設定を行う場合に使用します。

なお、設定ページでは、主な設定はグラフィカルユーザインタフェース (GUI) にて設定が可能ですが、本仕様書では設定ページ上では GUI による設定になっている内容も含めて解説しています。

2. IP 設定コマンド

IP に関するパラメータを設定します。

コマンド名	ip address	
タイトル	LAN 側の IP アドレスの設定	
説明	<p>本製品のIP アドレスとサブネットマスク長を入力します。購入時は、「192.168.2.1/24」と設定されています。既存のLAN に本製品を導入するときなど必要に応じて、変更してください。</p> <p>※IP アドレスは、ドットノテーション (XXX.XXX.XXX.XXX の形式) で入力します。</p>	
書式	ip address {address} [/{mask}]	
パラメータ	{address}	IPアドレス (xxx.xxx.xxx.xxx、xxxは10進数) (初期値: 192.168.2.1)
	{mask}	IPネットマスク (xxx.xxx.xxx.xxx、またはマスクビット数) (初期値: 24)

コマンド名	ip broadcast	
タイトル	LAN 側のブロードキャストアドレスの設定	
説明	<p>LAN上のすべてのパソコンにパケットを送信することがあります。そのときに使うIP アドレスを「ブロードキャストアドレス」といいます。</p> <p>ブロードキャストアドレスを設定します。詳しくは、ネットワークの管理者に相談してください。</p>	
書式	ip broadcast {broadcast}	
パラメータ	{broadcast}	0 全て0
		1 全て1 (初期値)
		2 サブネット+全て0
		3 サブネット+全て1

コマンド名	ip dhcp address	
タイトル	DHCP/BOOTP で割り当てる IP アドレス・個数の設定	
説明	<p>DHCP/BOOTPサーバ機能を使ってパソコンに設定するIPアドレスの範囲を入力します。</p> <p>※設定するときは、次の点に注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本製品と同じサブネットのIP アドレスを設定すること ・本製品のIP アドレスと重複しないように設定すること 	
書式	ip dhcp address {address}/{number}	
パラメータ	{address}	開始IPアドレス (初期値: 192.168.2.2)
	{number}	割り当てIPアドレス数 (初期値: 99)

コマンド名	ip dhcp domain	
タイトル	DHCP で割り当てるドメイン名の設定	

説明	<p>DHCP/BOOTP サーバ機能を使うとき、LAN 上で使用しているドメイン名を入力します。IP アドレスと共にドメイン名も各パソコンに設定されます。</p> <p>特に必要がない限り、ドメイン名を設定する必要はありません。</p> <p><メモ></p> <p>WANポートからPPPoEを採用していないプロバイダに接続する場合</p> <p>WANポートからPPPoEを採用していないプロバイダに接続する場合、IPアドレスを自動で割り当ててもらったときは、ドメイン名も取得できることがあります。</p> <p>その場合、[ドメイン名] が空欄のときだけ、プロバイダから取得したドメイン名がパソコンに通知されます。</p>	
書式	ip dhcp domain {domain}	
パラメータ	{domain}	ドメイン名（半角英数字32文字まで。“no”、“clear”は設定できません。）（初期値：空白）

コマンド名	ip dhcp leasetime	
タイトル	DHCP で割り当てる IP アドレスのリース時間の設定	
説明	<p>DHCP/BOOTPサーバ機能を使って設定されるIPアドレスの有効期限（1～9999時間）を入力します。</p> <p>ここで設定した時間を経過すると、一度設定されたIPアドレスが再利用できるようになります。</p> <p><メモ></p> <p>パソコンに割り当てられたIP アドレスの更新</p> <p>DHCP/BOOTP サーバ機能によってパソコンに設定されたIP アドレスは、[リース時間] が経過するまで使用されます。本製品のIPアドレスを変更したときなどパソコンのIPアドレスの変更が必要な場合でも、IPアドレスは自動的に更新されません。</p> <p>[リース時間] 内にパソコンに新しいIP アドレスを設定する場合は、それぞれのパソコンで操作してください。</p>	
書式	ip dhcp leasetime {time}	
パラメータ	{time}	1～9999 DHCPリース時間（時間）（初期値：24）

コマンド名	ip dhcp server	
タイトル	DHCP/BOOTP サーバ機能を使うかどうかの設定	
説明	<p>DHCP/BOOTP サーバ機能を使うかどうか選択します。購入時は、使うように設定されています。</p> <p>既存のLAN に本製品を導入するときなどで、すでにLAN 上にDHCP サーバがある場合や、IP アドレスを手動で設定する場合は、OFF にしてください。</p> <p>なお、本製品のIP アドレスを変更すると自動的にOFF になります。</p> <p>DHCP/BOOTP サーバ機能を使うときは必ず、[開始IP アドレス/ 個数] にパソコンに設定するIP アドレスの範囲を入力してください。</p>	
書式	ip dhcp server {off on}	

パラメータ	{off on}	off DHCP/BOOTP サーバ機能を使わない on DHCP/BOOTPサーバ機能を使う (初期値)
-------	----------	--

コマンド名	ip dhcp winsserver	
タイトル	DHCPで割り当てる WINS サーバのアドレスの設定	
説明	DHCPサーバ機能を使用するとき、パソコンに割り当てるWINSサーバのIPアドレスを設定します。 ※IP アドレスは、ドットノーテーション (XXX.XXX.XXX.XXX の形式) で入力します。 LAN 上のWindows98/Me/2000/XP のTCP/IP の設定で「WINS の解決をしない」または「WINS の解決にDHCPを使う」にしておくと、DHCP サーバからIP アドレスを取得する際に、ここで設定するWINS サーバアドレスが自動的に設定されます。また、ここで設定するWINS サーバアドレスは、本製品にリモートアクセスしたWindows98/Me/2000/XP に通知されます。	
書式	ip dhcp winsserver {primary} [{secondary}]	
パラメータ	{primary}	プライマリWINSサーバアドレス (初期値: 空白)
	{secondary}	セカンダリWINSサーバアドレス (初期値: 空白)

コマンド名	ip dmzhost address	
タイトル	DMZ ホストアドレスの設定	
説明	DMZホスト機能を使用する場合に転送先ホストアドレスを設定します。	
書式	ip dmzhost address {host_address}	
パラメータ	{host_address}	DMZホストアドレス (初期値: 空白)

コマンド名	ip dns relay	
タイトル	「AutoDNS」を行うかどうかの設定	
説明	AutoDNS機能を使うかどうか選択します。購入時は、使うように設定されています。 接続先のDNS サーバを利用する場合はとくに、AutoDNS 機能を使うことをお勧めします。 <注意> AutoDNS 機能を使用する場合、LAN 上のパソコンのDNSサーバアドレスの設定を「本製品のIP アドレス」に設定してください。	
書式	ip dns relay {off on}	
パラメータ	{off on}	off 「AutoDNS」を行わない
		on 「AutoDNS」を行う (初期値)

コマンド名	ip dns server	
タイトル	LAN 側の DNS サーバアドレスの設定	
説明	AutoDNS 機能を使用するとき、パソコンからのドメイン名解決要求を転送したいDNS サーバのIP アド	

	<p>レスを入力します。</p> <p>※IP アドレスは、ドットノーテーション (XXX.XXX.XXX.XXX の形式) で入力します。</p> <p>[AutoDNS 機能] をON にしている場合は、LAN 上のDNS サーバのIP アドレスを入力します。</p> <p>また、[AutoDNS 機能] をOFF、[DHCP サーバ機能] をON にしている場合は、LAN 上または相手先のDNS サーバのIP アドレスを入力します。</p> <p>設定したIPアドレスが、DNSサーバのアドレスとして各パソコンに通知されます。</p>	
書式	ip dns server {primary} [{secondary}]	
パラメータ	{primary}	プライマリDNSサーバアドレス (初期値: 空白)
	{secondary}	セカンダリDNSサーバアドレス (初期値: 空白)

コマンド名	ip dns filter	
タイトル	URL フィルタの登録	
説明	URLフィルタを登録します。最大31 個のURLフィルタを登録できます。	
書式	ip dns filter {number} {type} {string} {compare} [{log}] [{use}] [{schedule}]	
パラメータ	{number}	1~31 フィルタ番号
	{type}	フィルタタイプ
		reject DNS 問い合わせパケットを拒否 pass DNS 問い合わせパケットを転送
	{string}	比較用文字列 (半角英数字 64 文字まで)
	{compare}	比較方法
		begin 'string' で始まる
		notbegin 'string' で始まらない
		end 'string' で終わる
		notend 'string' で終わらない
equal 'string' と等しい		
notequal 'string' と等しくない		
include 'string' を含む notininclude 'string' を含まない		
{log}	log ログを出力する (省略時の設定)	
	nolog ログを出力しない	
{use}	valid フィルタを使用する (省略時の設定)	
	invalid フィルタを使用しない	
{schedule}	anysch 常に有効 (省略時の設定)	
	offsch 時間内無効	
	onsch 時間内有効	

コマンド名	ip dns filter	
タイトル	URL フィルタ（デフォルトフィルタの場合）の設定	
説明	登録されたURLフィルタのいずれにも一致しない場合の動作に関して設定します。	
書式	ip dns filter default {type} [{log}]	
パラメータ	{type}	フィルタタイプ reject DNS 問い合わせパケットを拒否 pass DNS 問い合わせパケットを転送
	{log}	log ログを出力する（省略時の設定） nolog ログを出力しない

コマンド名	ip dos mode	
タイトル	DoS 攻撃防御を利用するか否かの設定	
説明	DoS攻撃防御を利用するか否かを設定します。	
書式	ip dos mode {off on}	
パラメータ	{mode}	off DoS 攻撃防御を利用しない（初期値） on DoS攻撃防御を利用する

コマンド名	ip dos icmpflood mode	
タイトル	ICMP フラッディング保護機能を利用するか否かの設定	
説明	ICMPフラッディング保護機能を利用するか否かを設定します。	
書式	ip dos icmpflood mode {off on}	
パラメータ	{mode}	off ICMP フラッディング保護機能を利用しない on ICMPフラッディング保護機能を利用する（初期値）

コマンド名	ip dos icmpflood echo	
タイトル	ICMP echo 要求数の設定	
説明	ICMP echo要求数を設定します。	
書式	ip dos icmpflood echo {number}	
パラメータ	{number}	10～50 ICMP echo要求数（初期値：30）

コマンド名	ip dos incomplete mode	
タイトル	TCP インコンプリートセッション保護機能を利用するか否かの設定	
説明	TCPインコンプリートセッション保護機能を利用するか否かを設定します。	
書式	ip dos incomplete mode {off on}	

パラメータ	{mode}	off TCPインコンプリートセッション保護機能を利用しない on TCPインコンプリートセッション保護機能を利用する (初期値)
-------	--------	--

コマンド名	ip dos incomplete session low	
タイトル	インコンプリートセッション数 (下限) の設定	
説明	インコンプリートセッション数 (下限) を設定します。	
書式	ip dos incomplete session low {session}	
パラメータ	{session}	1~250 セッション数 (初期値 : 250)

コマンド名	ip dos incomplete session high	
タイトル	インコンプリートセッション数 (上限) の設定	
説明	インコンプリートセッション数 (上限) を設定します。	
書式	ip dos incomplete session high {session}	
パラメータ	{session}	1~300 セッション数 (初期値 : 300)

コマンド名	ip dos inactive session low	
タイトル	TCP/UDP非アクティブセッション数 (下限) の設定	
説明	TCP/UDP非アクティブセッション数 (下限) を設定します。	
書式	ip dos inactive session low {session}	
パラメータ	{session}	1~200 セッション数 (初期値 : 200)

コマンド名	ip dos inactive session high	
タイトル	TCP/UDP非アクティブセッション数 (上限) の設定	
説明	TCP/UDP非アクティブセッション数 (上限) を設定します。	
書式	ip dos inactive session high {session}	
パラメータ	{session}	1~250 セッション数 (初期値 : 250)

コマンド名	ip dos host incomplete mode	
タイトル	同一ホストインコンプリート、非アクティブセッション保護機能を利用するか否かの設定	
説明	同一ホストインコンプリート、非アクティブセッション保護機能を利用するか否かを設定します。	
書式	ip dos host incomplete mode {off on}	
パラメータ	{mode}	off 同一ホストインコンプリート、非アクティブセッション保護機能を利用しない on 同一ホストインコンプリート、非アクティブセッション保護機能を利用する (初期値)

コマンド名	ip dos host incomplete session	
-------	--------------------------------	--

タイトル	同一ホストインコンプリート、非アクティブセッション数の設定	
説明	同一ホストインコンプリート、非アクティブセッション数を設定します。	
書式	ip dos host incomplete session {session}	
パラメータ	{session}	1~50 セッション数 (初期値: 10)

コマンド名	ip dos host incomplete time	
タイトル	同一ホストインコンプリート、非アクティブセッション検出時間の設定	
説明	同一ホストインコンプリート、非アクティブセッション検出時間を設定します。	
書式	ip dos host incomplete time {time}	
パラメータ	{time}	50~5000 検出時間 (単位時間: ミリ秒) (初期値: 300)

コマンド名	ip dos host fragment mode	
タイトル	同一ホストフラグメンテーション保護機能を利用するか否かの設定	
説明	同一ホストフラグメンテーション保護機能を利用するか否かを設定します。	
書式	ip dos host fragment mode {off on}	
パラメータ	{mode}	off 同一ホストフラグメンテーション保護機能を利用しない on 同一ホストフラグメンテーション保護機能を利用する (初期値)

コマンド名	ip dos host fragment packet	
タイトル	同一ホストフラグメンテーションパケット数の設定	
説明	同一ホストフラグメンテーションパケット数を設定します。	
書式	ip dos host fragment packet {packet}	
パラメータ	{packet}	1~150 フラグメンテーションパケット数 (初期値: 30)

コマンド名	ip dos host fragment time	
タイトル	同一ホストフラグメンテーション検出時間の設定	
説明	同一ホストフラグメンテーション検出時間を設定します。	
書式	ip dos host fragment time {time}	
パラメータ	{time}	10~60000 検出時間 (単位時間: ミリ秒) (初期値: 10000)

コマンド名	ip dos blocktime	
タイトル	フラッディングブロックタイムの設定	
説明	フラッディングブロックタイムを設定します。	
書式	ip dos blocktime {time}	
パラメータ	{time}	60~30000 検出時間 (単位時間: 秒) (初期値: 300)

コマンド名	ip dos email mode	
タイトル	メール通知機能を利用するか否かの設定	
説明	メール通知機能を利用するか否かを設定します。	
書式	ip dos email mode {off on}	
パラメータ	{mode}	off メール通知機能を利用しない（初期値） on メール通知機能を利用する

コマンド名	ip dos email to	
タイトル	メール通知先のメールアドレスの設定	
説明	メール通知先のメールアドレスを設定します。	
書式	ip dos email to {address1} [{address2} {address3} {address4}]	
パラメータ	{address1}	通知先のメールアドレス（半角英数字62文字まで）（初期値：空白）
	{address2}	通知先のメールアドレス（半角英数字62文字まで）（初期値：空白）
	{address3}	通知先のメールアドレス（半角英数字62文字まで）（初期値：空白）
	{address4}	通知先のメールアドレス（半角英数字62文字まで）（初期値：空白）

コマンド名	ip dos email from	
タイトル	メール通知元のメールアドレスの設定	
説明	メール通知元のメールアドレスを設定します。	
書式	ip dos email from {address}	
パラメータ	{address}	通知元のメールアドレス（半角英数字62文字まで）（初期値：空白）

コマンド名	ip dos popb4smtp mode	
タイトル	POP Before SMTP 機能を利用するか否かの設定	
説明	POP Before SMTP機能を利用するか否かを設定します。	
書式	ip dos popb4smtp mode {off on}	
パラメータ	{mode}	off POP Before SMTP 機能を利用しない（初期値）
		on POP Before SMTP機能を利用する

コマンド名	ip dos popb4smtp server	
タイトル	POP3 サーバアドレスの設定	
説明	POP3サーバアドレスを設定します。	
書式	ip dos popb4smtp server {address}	
パラメータ	{address}	POP3サーバアドレスまたはドメイン名（半角英数字62文字まで）（初期値：空白）

コマンド名	ip dos popb4smtp user	
タイトル	POP3 ユーザ名の設定	
説明	POP3サーバのユーザ名を設定します。	
書式	ip dos popb4smtp user {username}	
パラメータ	{username}	POP3ユーザ名 (半角英数字32文字まで) (初期値: 空白)

コマンド名	ip dos popb4smtp password	
タイトル	POP3 パスワードの設定	
説明	POP3パスワードを設定します。	
書式	ip dos popb4smtp password {password}	
パラメータ	{password}	POP3サーバのパスワード (半角英数字 32 文字まで。"no"、"clear"は設定できません。) (初期値: 空白)

コマンド名	ip drctbcast	
タイトル	Directed-Broadcast を転送するか否かの設定	
説明	Directed-Broadcast を転送するかどうかを設定します。	
書式	ip drctbcast {mode}	
パラメータ	{mode}	forward 転送する discard 破棄する (初期値)

コマンド名	ip filter	
タイトル	IP フィルタの登録 (IP フィルタの場合)	
説明	<p>フィルタを登録します。最大64 個のフィルタを登録できます。</p> <p>フィルタを登録すると、本製品が受信したパケットごとにフィルタと比較します。比較は、フィルタ番号の小さいフィルタから順に行われ、パケットは最初に該当したフィルタの条件に従って処理されます。該当するフィルタがないパケットは通過します。</p> <p>また、フィルタが登録されていない場合は、すべてのアクセスが許可されます。</p> <p>IP フィルタを登録する書式は、LAN 側の場合、WAN 側 (PPPoE を使用するブロードバンド) の場合、WAN 側 (PPPoE を使用しないブロードバンド) の場合、さらにプロトコルにICMPを使用する場合とアプリケーション設定で登録された内容を使用する場合で異なります。</p> <p><注意></p> <p>ポートの概念がないプロトコル (TCP やUDP 以外のプロトコル) 、また、全てのプロトコルの場合、送信元ポート番号および送信先ポート番号は指定できません。</p> <p><メモ></p>	

	<p>プロトコル「TCP」「TCPEST」の違いについて</p> <p>「IP フィルタの登録」では、{protocol} (プロトコル) に「TCP」「TCPEST」を設定することができます。「TCP」を設定すると、TCPのセッションによるすべてTCPパケットが対象になります。「TCPEST」を設定すると、TCP のセッションを張る際の最初のTCP パケットだけが対象になります。次の例を参考にしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • TCP の場合 <pre>ip filter 1 reject in * * tcp * * remote 0</pre> <p>→相手先からのTCP パケットをすべて破棄します。TCP によるすべての通信が不可能になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • TCPEST の場合 <pre>ip filter 1 reject in * * tcepest * * remote 0</pre> <p>→相手先からは、TCP を使用するすべての通信サービスを利用できません。</p> <p>ただし、こちら側からは、TCPを使用するすべての通信サービスを利用できます。</p> <p><メモ></p> <p>アプリケーション設定との関連について</p> <p>「IP フィルタの登録」では「アプリケーション設定」に登録されたアプリケーション名を使用することができます。その際、プロトコル番号、送信元ポート番号、送信先ポート番号の表示の代わりに登録アプリケーション名が表示されます。</p>				
書式	<pre>ip filter {fnumber} {type} {dir} {srcaddr} [{srcmask}] {dstaddr} [{dstmask}] {protocol} [{srcport} {dstport}] {interface} [{rnumber} {log} {schedule}] ip filter {fnumber} {type} {dir} {srcaddr} [-{endsrcaddr}] {dstaddr} [-{enddstaddr}] {protocol} [{srcport} {dstport}] {interface} [{rnumber} {log} {schedule}] ip filter {fnumber} {type} {dir} {srcaddr} [{srcmask}] {dstaddr} [{dstmask}] icmp {icmptype} {interface} [{rnumber} {log} {schedule}] ip filter {fnumber} {type} {dir} {srcaddr} [-{endsrcaddr}] {dstaddr} [-{enddstaddr}] icmp {icmptype} {interface} [{rnumber} {log} {schedule}] ip filter {fnumber} {type} {dir} {srcaddr} [{srcmask}] {dstaddr} [{dstmask}] {appname} {interface} [{rnumber} {log} {schedule}] ip filter {fnumber} {type} {dir} {srcaddr} [-{endsrcaddr}] {dstaddr} [-{enddstaddr}] {appname} {interface} [{rnumber} {log} {schedule}]</pre>				
パラメータ	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="352 1659 501 1704">{fnumber}</td> <td data-bbox="501 1659 1375 1704">1~64 フィルタ番号</td> </tr> <tr> <td data-bbox="352 1704 501 1890">{type}</td> <td data-bbox="501 1704 1375 1890"> フィルタタイプ pass 一致すれば通す reject 一致すれば破棄する restrict 回線が接続されている場合だけ通す </td> </tr> </table>	{fnumber}	1~64 フィルタ番号	{type}	フィルタタイプ pass 一致すれば通す reject 一致すれば破棄する restrict 回線が接続されている場合だけ通す
{fnumber}	1~64 フィルタ番号				
{type}	フィルタタイプ pass 一致すれば通す reject 一致すれば破棄する restrict 回線が接続されている場合だけ通す				

{dir}	方向 in 受信時にフィルタリングする out 送信時にフィルタリングする
{srcaddr}	送信元アドレス（'*'は全て）
{srcmask}	ネットマスクまたはマスクビット数
{endsrcaddr}	範囲指定
{dstaddr}	送信先アドレス（'*'は全て）
{dstmask}	ネットマスクまたはマスクビット数
{enddstaddr}	範囲指定
{protocol}	プロトコル番号またはニーモニック ニーモニック... 'udp', 'tcp', 'tapest', 'tcpfin', 'icmp', 'gre', 'ipencap', '6to4', 'esp' （'*'は全て、'tapest'はSYN、'tcpfin'はFIN/RSTパケットを対象）
{srcport}	送信元ポート番号（'*'は全て、範囲指定は '-' で区切って入力）
{dstport}	送信先ポート番号（'*'は全て、範囲指定は '-' で区切って入力）
{icmptype}	ICMPタイプ番号
{appname}	アプリケーション名
{interface}	local LAN側のフィルタ remote WAN側（接続相手先-PPTP, PPPoE）のフィルタ wanether WAN側（WANポート）のフィルタ wanany WAN側全て
{rnumber}	1~15 相手先番号（{interface}が'remote'の場合は必ず必要、'*'は全ての相手先）
{log}	log ログを出力する（省略時の設定） nolog ログを出力しない
{schedule}	anysch 常に有効（省略時の設定） offsch 時間内無効 onsch 時間内有効

設定例	<p>1) 相手先#1と接続している場合、IPアドレス「192.168.10.10」の機器に対する、ftp によるアクセスを禁止するとき (フィルタ番号1 に登録)</p> <pre>→ ip filter 1 reject in * 192.168.10.10 tcp * 21 remote 1</pre> <p>2) 相手先#2に端末型ダイヤルアップ接続している場合、アクセスできるパソコンを「192.168.10.10」～「192.168.10.19」に限定するとき (フィルタ番号2、3に登録)</p> <pre>→ ip filter 2 pass out 192.168.10.10-192.168.10.19 * * remote 2</pre> <pre>→ ip filter 3 reject out * * * remote 2</pre> <p>3) TCP/SMTP パケットをLAN 側からWAN 側に送信する際、このフィルタを通過したパケットのログをSYSLOGサーバに出力しないとき (フィルタ番号4 に登録)</p> <pre>→ ip filter 4 pass out * * tcp * 25 remote * nolog</pre>
-----	--

コマンド名	ip filter																																		
タイトル	IP フィルタの登録 (拡張: DNS フィルタの場合)																																		
説明	<p>DNS Query パケットに関するIP フィルタを登録します。通常のIP フィルタと合わせて最大64 個のフィルタを登録できます。</p> <p>フィルタを登録すると、本製品が受信したDNS Queryパケットごとにフィルタと比較します。比較は、フィルタ番号の小さいフィルタから順に行われ、DNS Query パケットは最初に該当したフィルタの条件に従って処理されます。該当するフィルタがないDNS Query パケットは通過します (転送されます)。また、フィルタが登録されていない場合は、すべてのDNS Queryパケットが通過します (転送されます)。</p> <p><注意></p> <p>クエリタイプ番号「1」または「12」を破棄する設定にすると、本製品は簡易DNSサーバになりません。</p> <p><メモ></p> <p>●代表的なクエリタイプ番号</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 15%;">コード</th> <th style="width: 75%;">内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>A</td> <td>ホスト アドレス</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>NS</td> <td>そのドメインのオーソリティネームサーバ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>MD</td> <td>そのドメインのメールエージェントを持つホストを示す</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>MF</td> <td>そのドメインのためにメールを送信できるホストを示す</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>CNAME</td> <td>エイリアスの標準名</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>SOA</td> <td>オーソリティゾーンの起点</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>MB</td> <td>指定されたメールボックスを持つホストを示す</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>MG</td> <td>そのメールグループに属するメールボックスを示す</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>MR</td> <td>改名メールボックスのドメイン名</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>NULL</td> <td>その他の情報</td> </tr> </tbody> </table>		番号	コード	内容	1	A	ホスト アドレス	2	NS	そのドメインのオーソリティネームサーバ	3	MD	そのドメインのメールエージェントを持つホストを示す	4	MF	そのドメインのためにメールを送信できるホストを示す	5	CNAME	エイリアスの標準名	6	SOA	オーソリティゾーンの起点	7	MB	指定されたメールボックスを持つホストを示す	8	MG	そのメールグループに属するメールボックスを示す	9	MR	改名メールボックスのドメイン名	10	NULL	その他の情報
番号	コード	内容																																	
1	A	ホスト アドレス																																	
2	NS	そのドメインのオーソリティネームサーバ																																	
3	MD	そのドメインのメールエージェントを持つホストを示す																																	
4	MF	そのドメインのためにメールを送信できるホストを示す																																	
5	CNAME	エイリアスの標準名																																	
6	SOA	オーソリティゾーンの起点																																	
7	MB	指定されたメールボックスを持つホストを示す																																	
8	MG	そのメールグループに属するメールボックスを示す																																	
9	MR	改名メールボックスのドメイン名																																	
10	NULL	その他の情報																																	

	11	WKS	ウェルノウンサービス記述
	12	PTR	ドメイン名スペースの他の部分へのポインタ
	13	HINFO	そのホストが使うCPU とオペレーティングシステムのタイプ
	14	MINFO	メーリングリストを担当するメールボックス
	15	MX	そのドメインのメール交換局
	16	TXT	単なるテキスト文字列
書式	ip filter {fnumber} {type} dns qtype {number} [{log}]		
パラメータ	{fnumber}	1～64 フィルタ番号	
	{type}	フィルタタイプ pass 一致すれば通す reject 一致すれば破棄する	
	{number}	クエリタイプ番号	
	{log}	log ログを出力する (省略時の設定) nolog ログを出力しない	

コマンド名	ip host		
タイトル	ホストデータベースの登録		
説明	<p>パソコンのホスト名とIP アドレス、Ethernet (MAC) アドレスの組み合わせを登録します。</p> <p>ここで登録した内容は、次の場合に使用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本製品を簡易DNS サーバにする場合 ・本製品のDHCP/BOOTPサーバ機能で割り当てるIPアドレスとパソコンの組み合わせを固定する場合 		
書式	ip host {ipaddress} {name} [{alias} {macaddrss}]		
パラメータ	{ipaddress}	IPアドレス (xxx.xxx.xxx.xxx、xxxは10進数)	
	{name}	ホスト名	
	{alias}	ホスト名 (エイリアス)	
	{macaddrss}	Ethernet (MAC) アドレス (XX:XX:XX:XX:XX:XX、XXは16進数)	

コマンド名	ip mtu		
タイトル	LAN側 MTU 値設定		
説明	LANポートのMTUの値を設定します。		
書式	ip mtu {size}		
パラメータ	{size}	540～1500 MTU 値 (初期値 : 1500)	

コマンド名	ip nat		
タイトル	アドレス変換 (NAT) テーブルの設定		

<p>説明</p>	<p>IP アドレス変換 (NAT) テーブルを登録します。最大128 個のNAT テーブルを登録できます。</p> <p>NAT テーブルを登録すると、本製品が受信したパケットのIP アドレスごとにNATテーブルと比較します。比較は、NAT テーブル番号の小さな順に行われ、該当するNAT テーブルに従ってIP アドレスが変換されます。</p> <p>NATテーブルを1 個でも登録すると、該当するNATテーブルがないIPアドレスは、通信できなくなります。また、NAT+VPNを使用するVPNポリシーが設定されている場合にそのVPNに対するNATテーブルもない場合は通信できなくなります。</p> <p>グローバルアドレスを範囲指定するとプライベートアドレスも同じ数だけ範囲指定する必要があり、その場合は各アドレスの先頭から順番に1対1のNATテーブルが設定された場合と同様の動作を行います。</p> <p>IPアドレス変換 (NAT) テーブルを登録する書式は、プロトコルにICMP以外を使用する場合、プロトコルにICMPを使用する場合とアプリケーション設定で登録された内容を使用する場合で異なります。</p> <p><注意></p> <p>WAN 側から受信したパケットがlatest オプションの設定をしているNAT テーブルに該当した場合、設定された複数のプライベートIP アドレスのうち、最後に通信を行ったプライベートIP アドレスに転送されます。設定されているプロトコルおよびポート番号のすべてに外部からのアクセスが可能になりますので、latest オプションを使用するのは、どうしても必要な場合だけにしてください。</p> <p><メモ></p> <p>アプリケーション設定との関連について</p> <p>「IP アドレス変換 (NAT) テーブル」では「アプリケーション設定」に登録されたアプリケーション名を使用することができます。その際、プロトコル、ポート番号の表示の代わりに登録アプリケーション名が表示されます。</p>	
<p>書式</p>	<pre>ip nat {nnumber} {private} [-{range}]/[{protocol}]/{port}-{prange} {global} [-{grange}] {interface} [{rnumber}] [latest] ip nat {nnumber} {private} [-{range}]/icmp/{icmptype} {global} [-{grange}] {interface} [{rnumber}] [latest] ip nat {nnumber} {private} [-{range}]/{appname} {global} [-{grange}] {interface} [{rnumber}] [latest]</pre>	
<p>パラメータ</p>	<p>{nnumber}</p>	<p>1～128 NATテーブル番号</p>
	<p>{private}</p>	<p>プライベートIP アドレス</p> <p>※ドットノテーション (XXX.XXX.XXX.XXX の形式) で入力します。</p> <p>※プライベートIPアドレスの範囲を指定する場合は、開始と終了のプライベートIPアドレスを「-」で区切ってください。</p> <p>※' * ' を設定すると、すべてのIPアドレスが対象になります。</p>
	<p>{range}</p>	<p>プライベートIPアドレスの範囲を指定する場合の終了のプライベートIPアドレス</p>

{protocol}	<p>プロトコル</p> <p>プロトコル ... ' udp' , ' tcp' , ' gre' , ' icmp' , ' 6to4' , ' ipencap' , ' esp'</p> <p>※ ' *' を設定すると、すべてのプロトコルが対象になります。</p> <p>※ {port} と合わせて、省略できます。省略した場合は、すべてのプロトコルが対象になります。</p>
{port}	<p>ポート番号</p> <p>※ポート番号の範囲を指定する場合は、開始と終了のポート番号を「-」で区切ってください。</p> <p>※ ' *' を設定すると、すべてのポート番号が対象になります。</p>
{prange}	<p>ポート番号の範囲を指定する場合の終了のポート番号</p>
{icmpstype}	<p>ICMPタイプ番号</p>
{appname}	<p>アプリケーション登録名</p>
{global}	<p>グローバルIP アドレス</p> <p>※ドットノテーション (XXX.XXX.XXX.XXX の形式) で入力します。</p> <p>※WANポートから通信する場合、IPアドレスを手入力で設定したときは、同じIP アドレスを入力します。</p> <p>※ ' ipcp' を設定すると、端末型ダイヤルアップ時 (PPPoEを採用しているプロバイダに接続するときも含む) に割り当てられるIP アドレスになります。</p> <p>※ ' dhcp' を設定すると、WANポートをからのIP 通信時に使用するIP アドレスになります。</p> <p>※ ' dynamic' を設定すると、端末型ダイヤルアップ時 (PPPoEを採用しているプロバイダに接続するときも含む) に割り当てられるIP アドレス、あるいは、WAN ポートからのIP 通信時に使用するIP アドレスになります。</p> <p>※ ' *' (すべて) を設定することはできません。</p> <p>※ ' ipcp' , ' dhcp' , ' dynamic' を設定すると、その設定内容に関わらず、[設定内容一覧] では次のように表示されます。</p> <p>WAN側 (PPPoE を使用するブロードバンド) の場合 : ' ipcp'</p> <p>WAN側 (PPPoEを使用しないブロードバンド) の場合 : ' dhcp'</p> <p>WAN 側 (PPPoE を使用するブロードバンド) とWAN 側 (PPPoE を使用しないブロードバンド) 両方の場合 : ' dynamic'</p>
{grange}	<p>グローバル IP アドレスの範囲を指定する場合の終了のグローバル IP アドレス</p> <p>※この設定を行う場合、プライベートも同じ IP アドレスの個数で範囲指定する必要があります。</p>

	{interface}	<p>インタフェース</p> <p>ipsec IPSec</p> <p>remote PPPoE を使用するブロードバンド</p> <p>wanether PPPoE を使用しないブロードバンド</p> <p>省略または'*' 全て (IPSec は含まれません)</p>
	{rnumber}	<p>0~15 相手先番号、1~50 IPSecポリシー番号</p> <p>※「*」を設定すると、すべての相手先、または、すべてのIPSecポリシーが対象になります。また、省略した場合も、すべての相手先が対象になります。</p> <p>※「0~15、0~50、*」のいずれかを設定すると、その設定した相手先が対象になります。</p>
	latest	<p>latest オプションの使用</p> <p>※プライベートIPアドレスで、すべてのIPアドレスが指定されているか、IP アドレスの範囲が指定されている場合に有効です。</p> <p>※latest オプションは、設定された複数のプライベートIP アドレスのうち、最後に通信したプライベートIPアドレスに変換します。設定されているプロトコルおよびポート番号のすべてにWAN 側からのアクセスが可能になります。</p>
設定例		<p>1) 相手先#1にLAN 型ダイヤルアップ接続している場合、グローバルIP アドレス「133.232.200.90」を使用してアクセスできるパソコンを「192.168.0.2」に限定するとき (NAT テーブル番号1 に登録)</p> <p>→ ip nat 1 192.168.0.2/*/* 133.232.200.90 remote 1</p> <p>2) 相手先#2に端末型ダイヤルアップ接続している場合、外部にアクセスできるパソコンを「192.168.10.10」～「192.168.10.19」に限定するとき (NAT テーブル番号2 に登録)</p> <p>→ ip nat 2 192.168.10.10-192.168.10.19 ipcp remote 2</p> <p>3) CATVインターネットやADSLのPPPoEを採用していないプロバイダに接続してインターネットにアクセスする場合、通信時に割り当てられるグローバルIPアドレスを使って、「192.168.10.10」～「192.168.10.19」のパソコンがアクセスするとき (NAT テーブル番号3 に登録)</p> <p>→ ip nat 3 192.168.10.10-192.168.10.19 dhcp wanether</p>

コマンド名	ip natltime default	
タイトル	NAT 変換キャッシュ標準有効時間の設定	
説明	NAT変換キャッシュが設定された有効時間内に利用された場合はNAT変換キャッシュ内の有効時間を更新し、利用されなかった場合はNAT変換キャッシュを削除します。	
書式	ip natltime default {time}	
パラメータ	{time}	1~86400 有効時間(秒) 初期値 60

コマンド名	ip natltime tcepst
-------	--------------------

タイトル	TCP 接続確立状態での NAT 変換キャッシュ標準有効時間の設定	
説明	NAT変換キャッシュが設定された有効時間内に利用された場合はNAT変換キャッシュ内の有効時間を更新し、利用されなかった場合はNAT変換キャッシュを削除します。	
書式	ip natltime tcepest {time}	
パラメータ	{time}	1～86400 有効時間(秒) 初期値 600

コマンド名	ip natbcast	
タイトル	NAT 使用時に Broadcast パケットを転送するか否かの設定	
説明	<p>NAT使用時にWAN側から受信したブロードキャストパケットをLAN側へ転送するかどうかを設定します。</p> <p>転送するときは、ブロードキャストパケットの送信先のIPアドレスが、LAN側のブロードキャストアドレス（「ブロードキャストアドレスの設定」参照）に変換されます。</p> <p><注意></p> <p>NAT 使用時にブロードキャストパケットを転送する設定にすると、NAT テーブルの内容にかかわらず、すべてのブロードキャストパケットが転送されます。</p>	
書式	ip natbcast {off on}	
パラメータ	{off on}	off NAT 使用時に Broadcast パケットを転送しない（初期値） on NAT 使用時に Broadcast パケットを転送する

コマンド名	ip netmask	
タイトル	LAN 側のサブネットマスクの設定	
説明	LAN側のサブネットマスク情報を設定します。	
書式	ip netmask {mask}	
パラメータ	{mask}	IP ネットマスクまたは IP ネットマスクビット長

コマンド名	ip pmtud mode	
タイトル	Path MTU Discovery を使用するか否かの設定	
説明	Path MTU Discoveryを使用するか否かを設定します。	
書式	ip pmtud mode {off on}	
パラメータ	{off on}	off Path MTU Discovery を利用しない（初期値） on Path MTU Discoveryを利用する

コマンド名	ip ras accept	
タイトル	相手先からのリモートアクセスを受け付けるかどうかの設定	
説明	<p>リモートアクセスサーバ機能を使うかどうかを選択します。</p> <p>リモートアクセスサーバ機能を使うときは必ず、[相手先へ割り当てるIPアドレスの設定] にリモートア</p>	

	クセスするパソコンに割り当てるIP アドレスを設定してください。また、[接続/ 相手先登録] 画面で、リモートアクセスを許可する相手先を登録してください。	
書式	ip ras accept {off on}	
パラメータ	{off on}	off 相手先からのリモートアクセスを受け付けない (初期値) on 相手先からのリモートアクセスを受け付ける

コマンド名	ip ras address	
タイトル	相手先へ割り当てる IP アドレスの設定	
説明	<p>リモートアクセスサーバ機能を使うときに、リモートアクセスするパソコンに割り当てるIP アドレスを入力します。IP アドレスは、2 個まで設定できます。</p> <p>※IP アドレスは、ドットノテーション (XXX.XXX.XXX.XXX の形式) で入力します。</p> <p>※次のことに注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本製品と同じサブネットのIP アドレスを設定すること ・本製品を含むほかの機器に割り当てるIP アドレスと重複しないように設定すること 	
書式	ip ras address {address0} [{address1}]	
パラメータ	{address0}	相手先に割り当てるIPアドレス (初期値: 空白)
	{address1}	相手先に割り当てるIPアドレス

コマンド名	ip rip	
タイトル	RIP 送受信モードの設定	
説明	<p>RIP (Routing Information Protocol) のモードを設定します。</p> <p>RIP を送信する場合は、約30 秒ごとにRIP パケットがLAN 上のすべてのパソコンに送信されます。</p>	
書式	ip rip {mode}	
パラメータ	{mode}	both 送信と受信を行う (初期値) off 送信も受信も行わない recv 受信のみ行う send 送信のみ行う

コマンド名	ip route	
タイトル	IP 経路情報の登録 (LAN 側の経路の場合)	
説明	<p>IP 経路情報を追加登録します。IP 経路情報は32 個まで登録できます。登録した経路がすでにIP 経路情報に存在する場合は追加されません。</p> <p>IP 経路情報を登録する書式は、WAN 側 (PPPoE を使用するブロードバンド) の場合、WAN 側 (PPPoE を使用しないブロードバンド) の場合、LAN側の場合で異なります。</p>	
書式	ip route {net}/{mask}/{hops} local {gateway}	

パラメータ	{net}	IPアドレス (xxx.xxx.xxx.xxx、xxxは10進数)
	{mask}	IPネットマスク (xxx.xxx.xxx.xxx、またはマスクビット数)
	{hops}	1～15 ホップカウント
	{gateway}	ゲートウェイのIPアドレス
設定例	IP アドレス「192.168.0.100」のルータを経由するデフォルトルート (ホップカウント「7」) を登録するとき → ip route 0.0.0.0/0/7 local 192.168.0.100	

コマンド名	ip route	
タイトル	IP 経路情報の登録 (WAN (PPPoE を使用した Ethernet) 側の経路の場合)	
説明	IP 経路情報を追加登録します。IP 経路情報は32 個まで登録できます。登録した経路がすでにIP 経路情報に存在する場合は追加されません。 IP 経路情報を登録する書式は、WAN 側 (PPPoE を使用するブロードバンド) の場合、WAN 側 (PPPoE を使用しないブロードバンド) の場合、LAN側の場合、PPTP の場合で異なります。	
書式	ip route {net}/{mask}/{hops} remote {rnumber} [, {rnumber2}] {type}	
パラメータ	{net}	IPアドレス (xxx.xxx.xxx.xxx、xxxは10進数)
	{mask}	IPネットマスク (xxx.xxx.xxx.xxx、またはマスクビット数)
	{hops}	1～15 ホップカウント
	{rnumber}	0～15 相手先番号
	{rnumber2}	0～15 予備相手先番号
	{type}	経路情報種別 auto 自動ダイヤルアップルート static スタティックルート
設定例	相手先#1 のネットワーク番号「172.16.0.0/16」をスタティックルート (ホップカウント「2」) として登録するとき → ip route 172.16.0.0/16/2 remote 1 static	

コマンド名	ip route	
タイトル	IP 経路情報の登録 (WAN (PPPoE を使用しない Ethernet) 側の経路の場合)	
説明	IP 経路情報を追加登録します。IP 経路情報は32 個まで登録できます。登録した経路がすでにIP 経路情報に存在する場合は追加されません。 IP 経路情報を登録する書式は、WAN 側 (PPPoE を使用するブロードバンド) の場合、WAN 側 (PPPoE を使用しないブロードバンド) の場合、LAN側の場合、PPTP の場合で異なります。	
書式	ip route {net}/{mask} [/{hops}] wanether	
パラメータ	{net}	IPアドレス (xxx.xxx.xxx.xxx、xxxは10進数)

	{mask}	IPネットマスク (xxx.xxx.xxx.xxx、またはマスクビット数)
	{hops}	1~15 ホップカウント

コマンド名	ip spi mode	
タイトル	SPI (ステートフルパケットインスペクション) を利用するか否かの設定	
説明	<p>SPI (ステートフルパケットインスペクション) を使用するかどうかを設定します。</p> <p>SPI を使用する場合、以下の動作をします。</p> <ul style="list-style-type: none"> LAN 側で受信したパケットを WAN 側へ転送する際に SPI 用のキャッシュテーブルエントリを作成し、WAN 側から受信したパケットの動的フィルタに利用します。 WAN 側からパケットを受信する際、SPI 用のキャッシュテーブルに登録のない通信で、かつ、静的フィルタにも通過フィルタが存在しない場合はそのパケットを破棄します。 <p><注意></p> <p>SPI はリモートアクセスを行っている WAN インタフェースには適用されません。</p>	
書式	ip spi mode {on off}	
パラメータ	{on off}	on SPI 利用 (初期値) off SPI を利用しない

コマンド名	ip spi log	
タイトル	SPI (ステートフルパケットインスペクション) で破棄されたパケットのログ出力設定	
説明	<p>SPI を使用する設定の場合 SPI で破棄されたパケットのログを syslog に出力するかどうかを設定します。</p> <p>ログを出力する場合は、NOTICE タイプの SYSLOG を出力する設定にしてください。</p>	
書式	ip spi log {on off}	
パラメータ	{on off}	on ログを出力する (初期値) off ログを出力しない

コマンド名	ip stealth mode	
タイトル	ステルスモードを利用するか否かの設定	
説明	<p>ステルスモードを使用するかどうかを設定します。</p> <p>ステルスモードを使用する場合、以下の動作をします。</p> <ul style="list-style-type: none"> 端末型接続の場合、WAN 側インタフェースで受信した Ping (ICMP Echo Request パケット)、UDP パケットのうち、LAN 側の転送先が不明なものに関しては、応答 (ICMP Echo Reply、ICMP エラーなど) を返しません。 端末型接続の場合、WAN 側インタフェースで受信した TCP パケットのうち、LAN 側の転送先が不明なも 	

	<p>のに関しては、AUTH ポート (113)宛てのものに対してのみ RST を返し、その他の場合応答を返しません。</p> <ul style="list-style-type: none"> LAN 型接続の場合、WAN 側インタフェースで受信した Ping (ICMP Echo Request パケット)、UDP パケットのうち、送信先が本製品の IP アドレスの場合は応答 (ICMP Echo Reply、ICMP エラーなど)を返しません。 LAN 型接続の場合、WAN 側インタフェースで受信した TCP パケットのうち、送信先が本製品の IP アドレスの場合は AUTH ポート (113)宛てのパケットに対してのみ RST を返し、その他の場合は応答を返しません。 <p>ステルスモードを使用しない場合、以下の動作をします。</p> <ul style="list-style-type: none"> WAN 側インタフェースで受信した Ping や UDP パケット、TCP パケットは通常のフィルタや NAT の設定に従って処理されます。 WAN 側インタフェースで受信したパケットのうち、端末型接続で LAN 側への転送先が不明な TCP パケット、および、LAN 型接続で送信先が本製品の IP アドレスの TCP パケットは、宛先ポートにかかわらず RST を返します。 	
書式	ip stealth mode {on off}	
パラメータ	{on off}	on ステルスモード利用 (初期値) off ステルスモードを利用しない

コマンド名	ip stealth log	
タイトル	ステルスモードで破棄されたパケットのログ出力設定	
説明	<p>ステルスモードを使用する設定の場合、ステルスモードで破棄されたパケットのログをsyslogに出力するかどうかを設定します。</p> <p>ログを出力する場合は、NOTICEタイプのSYSLOGを出力する設定にしてください。</p>	
書式	ip stealth log {on off}	
パラメータ	{on off}	on ログを出力する (初期値) off ログを出力しない

コマンド名	ip vpnpt ipsec mode	
タイトル	IPsec パススルーを利用するか否かの設定	
説明	<p>IPsec パススルーを使用するかどうかを設定します。</p> <p>IPsec パススルーは WAN 側から受信したパケットの NAT 変換処理にて該当する NAT 変換キャッシュおよび NAT 設定が存在しなかった場合に適用されます。</p>	
書式	ip vpnpt ipsec mode {on off}	

パラメータ	{on off}	on IPsec パススルーを利用する off IPsec パススルーを利用しない（初期値）
-------	------------	---

コマンド名	ip vpnpt ipsec host	
タイトル	IPsec パススルーを利用するホストのアドレスを設定	
説明	IPsecパススルーを利用するホストのIP アドレスを設定します。 ※IP アドレスは、ドットノテーション（XXX.XXX.XXX.XXX の形式）で入力します。	
書式	ip vpnpt ipsec host {address}	
パラメータ	{address}	IPsecパススルーを利用するホストアドレス（初期値：空白）

コマンド名	ip vpnpt pptp mode	
タイトル	PPTP パススルーを利用するか否かの設定	
説明	PPTP パススルーを使用するかどうかを設定します。 PPTP パススルーは WAN 側から受信したパケットの NAT 変換処理にて該当する NAT 変換キャッシュおよび NAT 設定が存在しなかった場合に適用されます。	
書式	ip vpnpt pptp mode {on off}	
パラメータ	{on off}	on PPTP パススルーを利用する off PPTP パススルーを利用しない（初期値）

コマンド名	ip vpnpt pptp host	
タイトル	PPTP パススルーを利用するホストのアドレスを設定	
説明	PPTPパススルーを利用するホストのIP アドレスを設定します。 ※IP アドレスは、ドットノテーション（XXX.XXX.XXX.XXX の形式）で入力します。	
書式	ip vpnpt pptp host {address}	
パラメータ	{address}	PPTPパススルーを利用するホストアドレス（初期値：空白）

コマンド名	ip vpnpt l2tp mode	
タイトル	L2TP パススルーを利用するか否かの設定	
説明	L2TPパススルーを使用するかどうかを設定します。 L2TPパススルーはWAN側から受信したパケットのNAT変換処理にて該当するNAT変換キャッシュおよびNAT設定が存在しなかった場合に適用されます。	
書式	ip vpnpt l2tp mode {on off}	
パラメータ	{on off}	on L2TP パススルーを利用する off L2TP パススルーを利用しない（初期値）

コマンド名	ip vpnpt l2tp host	
タイトル	L2TP パススルーを利用するホストのアドレスを設定	
説明	L2TPパススルーを利用するホストのIP アドレスを設定します。 ※IP アドレスは、ドットノテーション (XXX.XXX.XXX.XXX の形式) で入力します。	
書式	ip vpnpt l2tp host {address}	
パラメータ	{address}	L2TPパススルーを利用するホストアドレス (初期値 : 空白)

3. 接続相手先設定コマンド

相手先に接続するための設定をします。

コマンド名	remote {rnumber} answer auth	
タイトル	着信時の認証プロトコルの設定	
説明	相手先から着信されて接続するときの認証プロトコルを選択します。	
書式	remote {rnumber} answer auth {authentication}	
パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号（登録番号#0～#15）
	{authentication}	none 認証を行わない either 相手先に合わせる（初期値） pap PAP chap CHAP mschapv2 MS-CHAPv2 chapany MS-CHAPv2 または CHAP

コマンド名	remote {rnumber} answer permit	
タイトル	相手からの着信に応じるかどうかの設定	
説明	相手先からの着信を許可するかどうかを選択します。	
書式	remote {rnumber} answer permit {off on}	
パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号（登録番号#0～#15）
	{off on}	off 相手からの着信に応じない（初期値） on 相手からの着信に応じる

コマンド名	remote {rnumber} call auth	
タイトル	発信時の認証プロトコルの設定	
説明	本製品から発信して接続するときの認証プロトコルを選択します。 相手先に合わせてください。	
書式	remote {rnumber} call auth {authentication}	
パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号（登録番号#0～#15）
	{authentication}	none 認証を行わない either 相手先に合わせる（初期値） pap PAP chap CHAP mschapv2 MS-CHAPv2 chapany MS-CHAPv2 または CHAP

コマンド名	remote {rnumber} call auto	
タイトル	自動ダイヤルアップを行うかどうかの設定	
説明	IP経路情報の自動接続用経路の設定にかかわらず、指定した相手先への自動接続を許可するかどうかを設定します。	
書式	remote {rnumber} call auto {off on}	
パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号（登録番号#0～#15）
	{off on}	off 相手先への自動ダイヤルアップを行わない on 相手先への自動ダイヤルアップを行う（初期値）

コマンド名	remote {rnumber} pmtud dfbit	
タイトル	PPTP パケットの DF フラグの設定	
説明	PPTPパケットのDFフラグの扱いを設定します。	
書式	remote {rnumber} pmtud dfbit {mode}	
パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号（登録番号#0～#15）
	{mode}	copy DFビットをコピーする（初期値） off DFビットを常にクリアする on DFビットを常にセットする

コマンド名	remote {rnumber} disconnect idle	
タイトル	自動切断タイマの設定	
説明	相手先に回線を接続中に一定時間以上通信がないときは、自動的に回線を切断することができます。自動切断するまでの一定時間（10 ～ 9999 秒）を入力します。自動切断しないときは、「0」（ゼロ）と入力します。	
書式	remote {rnumber} disconnect idle {time}	
パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号（登録番号#0～#15）
	{time}	0（無制限），10～9999 自動切断タイマ値（秒）（初期値：900）

コマンド名	remote {rnumber} disconnect max	
タイトル	最大接続時間の設定	
説明	相手先との接続を保持する最大時間を制限できます。回線接続後、設定した時間が経過すると、通信中でも回線を切断します。「分（10 ～ 9999）」を入力します。接続時間を制限しないときは、「0」（ゼロ）と入力します。 <注意> 最大接続時間の制限を設定するときは、必ず、本製品に設定されている日付と時刻を確認してください。	
書式	remote {rnumber} disconnect max {time}	

パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号（登録番号#0～#15）
	{time}	0（無制限），10～9999 最大接続時間（分）（初期値：0）

コマンド名	remote {rnumber} dnsserver	
タイトル	相手先 DNS サーバアドレスの設定	
説明	<p>相手先のDNS サーバのIP アドレスを入力します。</p> <p>[AutoDNS 機能] をON にしているときだけ有効になります。</p> <p><メモ></p> <p>[DNS サーバアドレス] を設定するとき</p> <p>AutoDNS機能を使うと、接続した相手先のDNS サーバのIP アドレスを自動的に取得します。そのため、相手先のDNS サーバのIP アドレスを設定する必要はありません。</p> <p>しかし、接続する相手先によっては、DNS サーバのIP アドレスを自動的に取得できないことがあります。接続後に正しく通信できない場合には、[DNS サーバアドレス] を設定してください。</p> <p>DNS サーバのIP アドレスを取得できたかどうかは、[接続状況] 画面で確認できます。</p>	
書式	remote {rnumber} dnsserver {address}	
パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号（登録番号#0～#15）
	{address}	相手先DNSサーバアドレス（初期値：空白）

コマンド名	remote {rnumber} dos mode	
タイトル	DoS 攻撃防御を利用するか否かの設定	
説明	DoS攻撃防御を利用するか否かを設定します。	
書式	remote {rnumber} dos mode {off on}	
パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号（登録番号#0～#15）
	{off on}	off DoS攻撃防御を利用しない on DoS攻撃防御を利用する（初期値）

コマンド名	remote {rnumber} dos log	
タイトル	DoS 攻撃防御に関するログを出力するか否かの設定	
説明	DoS攻撃防御に関するログを出力するか否かを設定します。	
書式	remote {rnumber} dos log {off on}	
パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号（登録番号#0～#15）
	{off on}	off DoS攻撃防御のログを出力しない on DoS攻撃防御のログを出力する（初期値）

コマンド名	remote {rnumber} encrypt use	
-------	------------------------------	--

タイトル	暗号化を行うかどうかの設定	
説明	本製品から送信するデータを暗号化するかどうかを設定します。 本製品は、MPPEに対応しています。	
書式	remote {rnumber} encrypt use {param}	
パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号（登録番号#0～#15）
	{param}	off 暗号化を行わない（初期値） mppe-40 MPPE（鍵長 40bit）の暗号化を使用する mppe-128 MPPE（鍵長 128bit）の暗号化を使用する mppe-any MPPE（鍵長 40bit または 128bit）の暗号化を使用する

コマンド名	remote {rnumber} mode	
タイトル	接続モードの設定	
説明	相手先とどのように接続するかを選択します。	
書式	remote {rnumber} mode {mode}	
パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号（登録番号#0～#15）
	{mode}	lan LAN 型接続 terminal 端末型接続（初期値）

コマンド名	remote {rnumber} mss mode	
タイトル	MSS変換機能の設定	
説明	MSS変換機能を使うと、接続中にTCPのオプションであるMSSの値を変更できます。MSSの値を変更しないと通信できないアプリケーション（ネットワークゲームを含む）を使うときや、MSSの値を変更しないと通信できないサーバにアクセスするときなどは、この機能を使用します。購入時はMSS変換機能を使用する設定になっています。	
書式	remote {rnumber} mss mode {off on}	
パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号（登録番号#0～#15）
	{off on}	off 使用しない on 使用する（初期値）

コマンド名	remote {rnumber} mss size	
タイトル	MSS値の設定	
説明	TCPのオプションであるMSSの値を任意に設定します。MSS値変換機能を使用する設定になっているときのみ有効です。購入時、MSSの値は「1414」に設定されています。	
書式	remote {rnumber} mss size {size}	
パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号（登録番号#0～#15）

	{size}	500~1460 MSSの値 (初期値=1414)
--	--------	---------------------------

コマンド名	remote {rnumber} mtu	
タイトル	PPPoE 使用時の MTU 値設定	
説明	通信時のMTU(Maximum Transmission Unit)の値の設定をします。	
書式	remote {rnumber} mtu {size}	
パラメータ	{rnumber}	0~15 相手先番号 (登録番号#0~#15)
	size	540-1500 MTU 値 (初期値 : 1454)

コマンド名	remote {rnumber} name	
タイトル	相手先名称の設定	
説明	相手先の名称を、半角英数字 (32文字まで) または全角ひらがな、漢字、英数字 (16文字まで) 入力します。設定した名称は、詳細設定ページの画面左側に反映されます。 通信には使用されませんので、分かりやすい名前を入力してください。	
書式	remote {rnumber} name {name}	
パラメータ	{rnumber}	0~15 相手先番号 (登録番号#0~#15)
	{name}	相手先名称 (半角英数 32 文字、または、全角ひらがな、漢字、英数字 (16 文字まで) まで。"no"、"clear"は設定できません。) (初期値 : 空白)

コマンド名	remote {rnumber} number	
タイトル	PPTP サーバアドレスの設定	
説明	PPTPサーバアドレスを設定します。	
書式	remote {rnumber} number {address}	
パラメータ	{rnumber}	0~15 相手先番号 (登録番号#0~#15)
	{address}	PPTPサーバのIPアドレス (xxx.xxx.xxx.xxx、xxxは10進数) (初期値 : 空白)

コマンド名	remote {rnumber} ppp ipcp address	
タイトル	IPCP の IP アドレスオプションを使用するかどうかの設定	
説明	接続時にIPアドレスオプションのネゴシエーションを行なうかどうかを設定します。	
書式	remote {rnumber} ppp ipcp address {off on}	
パラメータ	{rnumber}	0~15 相手先番号 (登録番号#0~#15)
	{off on}	off IP アドレスオプションを使用しない on IP アドレスオプションを使用する (初期値)

コマンド名	remote {rnumber} ppp ipcp dns	
-------	-------------------------------	--

タイトル	IPCP の DNS サーバオプションを使用するかどうかの設定	
説明	接続時にDNSサーバアドレスのネゴシエーションを行なうかどうかを設定します。	
書式	remote {rnumber} ppp ipcp dns {off on}	
パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号（登録番号#0～#15）
	{off on}	off DNS サーバオプションを使用しない on DNS サーバオプションを使用する（初期値）

コマンド名	remote {rnumber} pppoe sname	
タイトル	PPPoE サービス名の設定	
説明	PPPoE を採用しているプロバイダに接続する際、プロバイダからサービス名 (Service-Name) を指定された場合、そのサービス名を設定します。 <注意> このコマンドは、プロバイダから指定された場合のみ設定してください。	
書式	remote {rnumber} pppoe sname {sname}	
パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号（登録番号#0～#15）
	{sname}	PPPoEサービス名の設定（初期値：空白）

コマンド名	remote {rnumber} pppoe aname	
タイトル	PPPoE アクセス名の設定	
説明	PPPoE を採用しているプロバイダに接続する際、プロバイダからサーバ名 (ACName) を指定された場合、そのサーバ名を設定します。 <注意> このコマンドは、プロバイダから指定された場合のみ設定してください。	
書式	remote {rnumber} pppoe aname {aname}	
パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号（登録番号#0～#15）
	{aname}	PPPoEアクセス名の設定（初期値：空白）

コマンド名	remote {rnumber} pppoe keepalive	
タイトル	セッションキープアライブ機能の設定	
説明	セッションキープアライブ機能を設定します。	
書式	remote {rnumber} pppoe keepalive {off on}	
パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号（登録番号#0～#15）
	{off on}	off セッションキープアライブ機能を使用しない（初期値） on セッションキープアライブ機能を使用する

コマンド名	remote {rnumber} pppoe echo	
タイトル	LCPエコーチェック機能の設定	
説明	LCPエコーチェック機能を使うと、PPPoEを採用しているプロバイダに接続中に、本製品側からプロバイダ側へ1分ごとにLCPエコー要求パケットを送信し、正しく接続しているかどうかをチェックします。プロバイダ側からの応答がない場合は、本製品側から切断します。購入時はLCPエコーチェック機能を使用する設定になっています。	
書式	remote {rnumber} pppoe echo {off on}	
パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号（登録番号#0～#15）
	{off on}	LCPエコーチェック機能を使用するかどうか off 使用しない on 使用する（初期値）

コマンド名	remote {rnumber} pppoe always	
タイトル	PPPoEセッションキープアライブ拡張機能の設定	
説明	セッションキープアライブ拡張機能を使うと、相手先がPPPoEを採用しているプロバイダの場合、本製品の起動時に自動的にプロバイダに接続し、接続中に何らかの理由で切断された場合、自動的にプロバイダに再接続します。また、プロバイダに再接続している最中に、意図的な発信や自動接続で接続に失敗した場合もセッションキープアライブ拡張機能が動作します。なお、セッションキープアライブ拡張機能を使用すると、LCPエコーチェック機能もLCPエコーチェック機能の設定にかかわらず自動的に「使用する」状態になります。 セッションキープアライブ拡張機能が停止するのは、意図的に切断した場合のみとなります。	
書式	remote {rnumber} pppoe always {off on}	
パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号（登録番号#0～#15）
	{off on}	セッションキープアライブ拡張機能を使用するかどうか off 使用しない（初期値） on 使用する

コマンド名	remote {rnumber} receive id	
タイトル	受信ユーザ ID の設定	
説明	着信時の認証にユーザIDを使うときに設定します。半角英数字（32文字まで）で入力します。	
書式	remote {rnumber} receive id {user-id}	
パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号（登録番号#0～#15）
	{user-id}	ユーザID（半角英数字32文字まで。“no”、“clear”は設定できません。）（初期値：空白）

コマンド名	remote {rnumber} receive password	
タイトル	受信パスワードの設定	
説明	着信時の認証にパスワードを使うときに設定します。半角英数字（32 文字まで）で入力します。	
書式	remote {rnumber} receive password {password}	
パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号（登録番号#0～#15）
	{password}	受信パスワード（半角英数字 32 文字まで。“no”、“clear”は設定できません。）（初期値：空白）

コマンド名	remote {rnumber} rmtaddress	
タイトル	相手先ルータアドレスの設定	
説明	相手先ルータのIP アドレスを設定します。	
書式	remote {rnumber} rmtaddress {address}	
パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号（登録番号#0～#15）
	{address}	相手先ルータのIPアドレス（xxx.xxx.xxx.xxx、xxxは10進数）（初期値：空白）

コマンド名	remote {rnumber} route	
タイトル	あて先ドメイン名の設定	
説明	設定したドメイン名、または、アドレス宛のパケットが来た場合、指定した接続相手先経由で通信します。カンマで区切り 4 つまで設定できます。入力可能な文字数は、それぞれ半角 62 文字までです。	
書式	remote {rnumber} route {src} [/ {srcmask}] {dst} [/ {dstmask}] {protocol} {dstport} remote {rnumber} route {src} [- {srcrange}] {dst} [- {dstrange}] {protocol} {dstport}	
パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号（登録番号#0～#15）
	{src}	送信元IPアドレス（xxx.xxx.xxx.xxx、xxxは10進数、または、'*'（全て））（初期値：空白）
	{srcmask}	送信元ネットワークマスク（マスクビット数）
	{srcrange}	送信元アドレス範囲（xxx.xxx.xxx.xxx、xxxは10進数）
	{dst}	送信先ドメイン名、または、送信先IPアドレス（xxx.xxx.xxx.xxx、xxxは10進数、または、'*'（全て）） 送信先ドメイン名はカンマで区切り4つまで設定できます、1つの設定は半角62文字までです。
	{dstmask}	送信先ネットワークマスク（マスクビット数）
	{dstrange}	送信先アドレス範囲（xxx.xxx.xxx.xxx、xxxは10進数）
	{protocol}	プロトコル番号(1～255)、またはニーモニック ニーモニック... 'esp', 'gre', 'icmp', 'ipencap', 'tcp', 'udp' (* は全て)

	{dstport}	送信先ポート番号(1~65535、'*'は全て)
--	-----------	--------------------------

コマンド名	remote {rnumber} send id	
タイトル	送信ユーザ ID の設定	
説明	認証に必要なユーザID を、半角英数字 (64 文字まで) で入力します。相手先 (プロバイダなど) から指定されたユーザID を入力します。	
書式	remote {rnumber} send id {user-id}	
パラメータ	{rnumber}	0~15 相手先番号 (登録番号#0~#15)
	{user-id}	ユーザ ID (半角英数字 64 文字まで。"no"、"clear"は設定できません。) (初期値 : 空白)

コマンド名	remote {rnumber} send password	
タイトル	送信パスワードの設定	
説明	認証に必要なパスワードを、半角英数字 (32 文字まで) で入力します。どのような文字を入力しても、画面には「*」や「●」と表示されます。	
書式	remote {rnumber} send password {password}	
パラメータ	{rnumber}	0~15 相手先番号 (登録番号#0~#15)
	{password}	送信パスワード (半角英数字 32 文字まで。"no"、"clear"は設定できません。) (初期値 : 空白)

コマンド名	remote {rnumber} wanaddress	
タイトル	WAN 側の IP アドレスの設定	
説明	相手先との接続形態が LAN 型で、WAN 側で別のサブネットを使用する numbered 接続のとき、本装置の WAN 側の IP アドレスを設定します。	
書式	remote {rnumber} wanaddress [{address}]/{mask}	
パラメータ	{rnumber}	0~15 相手先番号 (登録番号#0~#15)
	{address}	IP アドレス (xxx.xxx.xxx.xxx、xxxは10進数) (初期値 : 空白)
	{mask}	IP ネットマスク (xxx.xxx.xxx.xxx、またはマスクビット数) (初期値 : 空白)

4. 本体設定コマンド

本体の各種設定を行います。

コマンド名	sys adjust interface	
タイトル	NTP サーバへの経路先の設定	
説明	時刻を問い合わせるNTP サーバにアクセスするために経由する相手先を選択します。	
書式	sys adjust interface {ifname} [{rnumber}]	
パラメータ	{ifname}	local LAN 内のNTP サーバにアクセスするときや、PPPoE を採用していないプロバイダ (WANポートからの通信) を経由するとき remote PPPまたはPPPoEを採用しているプロバイダを経由するとき (初期値)
	{rnumber}	0~15 相手先番号 (登録番号#0~#15) (初期値 : 0)

コマンド名	sys adjust period	
タイトル	修正する間隔(日)の設定	
説明	時刻を自動的に修正する日数間隔を、半角数字1 ~ 7 の範囲で入力します。	
書式	sys adjust period {day}	
パラメータ	{day}	1~7 時刻修正を行う間隔 (日) (初期値 : 7)

コマンド名	sys adjust server	
タイトル	NTP サーバアドレスの設定	
説明	時刻を問い合わせるNTP サーバのIP アドレスを入力します。 ※IP アドレスは、ドットノーテーション (XXX.XXX.XXX.XXX の形式) で入力します。	
書式	sys adjust server {primary} [{secondary}]	
パラメータ	{primary}	プライマリNTPサーバアドレス (初期値 : 空白)
	{secondary}	セカンダリNTPサーバアドレス (初期値 : 空白)

コマンド名	sys adjust use	
タイトル	時刻修正機能を使うか否かの設定	
説明	時刻修正機能を使うかどうかを設定します。	
書式	sys adjust use {off on}	
パラメータ	{off on}	off 時刻修正機能を使用しない (初期値) on 時刻修正機能を使用する

コマンド名	sys ethernet	
タイトル	LAN ポートの動作モードの設定	

説明	各LANポートの動作モードを設定します。	
書式	sys Ethernet {lan} mode {mode}	
パラメータ	{lan}	lan1 LAN1 ポートの動作モードの設定 lan2 LAN2 ポートの動作モードの設定 lan3 LAN3 ポートの動作モードの設定 lan4 LAN4 ポートの動作モードの設定 WAN WAN ポートの動作モードの設定 dmz dmz ポートの動作モードの設定
	{mode}	auto … 自動判別 (初期値) 10half … 10Base-T 半二重 10full … 10Base-T 全二重 100half … 100Base-TX 半二重 100full … 100Base-TX 全二重

コマンド名	sys kcode	
タイトル	文字コードの設定	
説明	telnetから設定する場合に表示する文字コードを設定します。	
書式	sys kcode {kcode}	
パラメータ	{kcode}	文字コード euc 日本語(EUC) sjis 日本語(SJIS) (初期値) none 英語 jis 日本語(JIS)

コマンド名	sys name	
タイトル	本製品の名称の設定	
説明	本製品の名称を英数字で設定します。設定した内容は、全設定ページの画面左側に反映されます。 また、設定ページへアクセスする際のドメイン名として使用できます。	
書式	sys name {name}	
パラメータ	{name}	本製品の名称 (半角英数字 32 文字まで。"no"、"clear"は設定できません。) (初期値：製品によって異なります)

コマンド名	sys time	
タイトル	本体の日付と時刻の設定	
説明	「1996/01/01-00:00」のように、西暦 (4 桁)、月、日、時刻を入力します。西暦、月、日は「/」 (ス	

<p>ラッシュ)で、日付と時刻は「-」(ハイフン)で区切ってください。設定した内容は、情報表示の各画面に反映されます。</p> <p><メモ></p> <p>本製品の日付と時刻の設定方法</p> <p>本製品に日付と時刻を設定する方法には、手動設定と自動設定があります。</p> <p>・手動設定</p> <p>(1) [本体設定]画面の[設定する日付と時刻]で設定します。</p> <p>(2) [クイック設定]で設定を行います。自動的に、設定を行ったパソコンの日付と時刻が設定されます。</p> <p>(3) 「時刻修正機能」を使用する設定を行い、「adjust」コマンドで時刻修正を実行します。</p> <p>※(1)(3)の方法で設定した場合は、すでに日付と時刻が設定されているかどうかに関わらず、その設定内容に更新されます。</p> <p>・自動設定</p> <p>次のような場合に、自動的に日付と時刻が設定されます。</p> <p>(1) 本製品の電源をONにしたときに日付と時刻が設定されていない場合、本製品はLAN上に時刻を要求するパケットを送信します。LAN上にUnixマシンなどのタイムサーバ機能を持ったサーバが接続されている場合は、そのサーバから時刻を返答するパケットが送信されます。本製品はそのパケットを受信して、その内容を設定します。複数のサーバから時刻を返答するパケットが送信された場合は、最初に受信したパケットの内容を設定します。</p> <p>(2) 上記(1)でパケットを受信できなかった場合は、本製品のルータ機能を使って回線を接続したときに、相手先のDNSサーバに対して(LAN上のDNSサーバを指定している場合は、そのサーバが優先されます)時刻を要求するパケットを送信します。相手先のDNSサーバから時刻を返答するパケットが送信されると、本製品はそのパケットを受信して、その内容を設定します。ただし、本製品同士を接続した場合、自動設定は行われません。</p> <p>(3) 「時刻修正機能」を使用する設定を行います。</p>	
書式	sys time {date-time}
パラメータ	{date-time} 本体に設定する日付と時刻 (yyyy/mm/dd-hh:mm) (初期値: 1996/1/1 00:00)

コマンド名	sys console mode						
タイトル	コンソールポートを使用するか否かの設定						
説明	<p>コンソールポートを使用するかどうかを設定します。</p> <p><注意></p> <p>本機能はMR304X、MR304DVでは使用できません。</p>						
書式	sys console mode {mode}						
パラメータ	<table border="0"> <tr> <td>{mode}</td> <td>off</td> <td>コンソールポートを使用しない</td> </tr> <tr> <td></td> <td>on</td> <td>コンソールポートを使用する (初期値)</td> </tr> </table>	{mode}	off	コンソールポートを使用しない		on	コンソールポートを使用する (初期値)
{mode}	off	コンソールポートを使用しない					
	on	コンソールポートを使用する (初期値)					

コマンド名	sys console speed	
タイトル	コンソールポートのボーレートの設定	
説明	コンソールポートのボーレートを設定します。	
書式	sys console speed {speed} <注意> 本機能はMR304X、MR304DVでは使用できません。	
パラメータ	{speed}	9600/19200/38400/57600/115200 ボーレート (初期値 : 57600)

コマンド名	sys console data	
タイトル	コンソールポートのデータ長の設定	
説明	コンソールポートのデータ長を設定します。 <注意> 本機能はMR304X、MR304DVでは使用できません。	
書式	sys console data {data}	
パラメータ	{data}	7/8 ビット長 (初期値 : 8)

コマンド名	sys console parity	
タイトル	コンソールポートのパリティの設定	
説明	コンソールポートのパリティを設定します。 <注意> 本機能はMR304X、MR304DVでは使用できません。	
書式	sys console parity {parity}	
パラメータ	{parity}	none パリティなし (初期値) odd 奇数パリティ even 偶数パリティ

コマンド名	sys console stop	
タイトル	コンソールポートのストップビット長の設定	
説明	コンソールポートのストップビット長を設定します。 <注意> 本機能はMR304X、MR304DVでは使用できません。	
書式	sys console stop {stop}	
パラメータ	{stop}	1/2 ビット長 (初期値 : 1)

コマンド名	sys console flow	
タイトル	コンソールポートのフロー制御の設定	
説明	<p>コンソールポートのフロー制御を設定します。</p> <p><注意></p> <p>本機能はMR304X、MR304DVでは使用できません。</p>	
書式	sys console flow {flow}	
パラメータ	{flow}	<p>none なし (初期値)</p> <p>soft XON/XOFF</p>

5. ユーザ設定コマンド

本製品にアクセスするユーザの設定を行います。

コマンド名	user admin id	
タイトル	管理者用ユーザ ID の設定	
説明	管理者のユーザIDを設定します。	
書式	user admin id {id}	
パラメータ	{id}	管理者用ユーザ ID (半角英数字 40 文字まで。“no”、“clear”は設定できません。) (初期値 : admin)

コマンド名	user admin password	
タイトル	管理者用パスワードの設定	
説明	管理者のパスワードを設定します。	
書式	user admin password {password}	
パラメータ	{password}	管理者用パスワード (半角英数字 40 文字まで。“no”、“clear”は設定できません。) (初期値 : 空白)

コマンド名	user admin reserve filter reference	
タイトル	フィルタ設定の管理者リザーブ番号を、一般ユーザーが参照可能か否かの設定	
説明	フィルタ設定の管理者リザーブ番号を、一般ユーザーが参照可能か否かを設定します。	
書式	user admin reserve filter reference {off on}	
パラメータ	{off on}	off 管理者リザーブ番号の参照を許可しない (初期値) on 管理者リザーブ番号の参照を許可する

コマンド名	user admin reserve filter number	
タイトル	フィルタ設定の管理者リザーブ番号を、一般ユーザーが参照可能か否かの設定	
説明	フィルタ設定の管理者リザーブ番号を、一般ユーザーが参照可能か否かを設定します。	
書式	user admin reserve filter number {start1}-{end1} [{start2}-{end2}]	
パラメータ	{start1}	1～64 管理者リザーブ範囲の開始番号1 (初期値 : 空白)
	{end1}	1～64 管理者リザーブ範囲の終了番号1 (初期値 : 空白)
	{start2}	1～64 管理者リザーブ範囲の開始番号2
	{end2}	1～64 管理者リザーブ範囲の終了番号2

コマンド名	user admin reserve nat reference	
タイトル	NAT 設定の管理者リザーブ番号を、一般ユーザーが参照可能か否かの設定	

説明	NAT設定の管理者リザーブ番号を、一般ユーザーが参照可能か否かを設定します。	
書式	user admin reserve nat reference {off on}	
パラメータ	{off on}	off 管理者リザーブ番号の参照を許可しない（初期値） on 管理者リザーブ番号の参照を許可する

コマンド名	user admin reserve nat number	
タイトル	NAT設定の管理者リザーブ番号を、一般ユーザーが参照可能か否かの設定	
説明	NAT設定の管理者リザーブ番号を、一般ユーザーが参照可能か否かを設定します。	
書式	user admin reserve nat number {start1}-{end1} [{start2}-{end2}]	
パラメータ	{start1}	1～128 管理者リザーブ範囲の開始番号1（初期値：空白）
	{end1}	1～128 管理者リザーブ範囲の終了番号1（初期値：空白）
	{start2}	1～128 管理者リザーブ範囲の開始番号2
	{end2}	1～128 管理者リザーブ範囲の終了番号2

コマンド名	user admin reserve remote reference	
タイトル	相手先設定の管理者リザーブ番号を、一般ユーザーが参照可能か否かの設定	
説明	相手先設定の管理者リザーブ番号を、一般ユーザーが参照可能か否かを設定します。	
書式	user admin reserve remote reference {off on}	
パラメータ	{off on}	off 管理者リザーブ番号の参照を許可しない（初期値） on 管理者リザーブ番号の参照を許可する

コマンド名	user admin reserve remote number	
タイトル	相手先設定の管理者リザーブ番号を、一般ユーザーが参照可能か否かの設定	
説明	相手先設定の管理者リザーブ番号を、一般ユーザーが参照可能か否かを設定します。	
書式	user admin reserve filter number {start1}-{end1} [{start2}-{end2}]	
パラメータ	{start1}	0～15 管理者リザーブ範囲の開始番号1（初期値：空白）
	{end1}	0～15 管理者リザーブ範囲の終了番号1（初期値：空白）
	{start2}	0～15 管理者リザーブ範囲の開始番号2
	{end2}	0～15 管理者リザーブ範囲の終了番号2

コマンド名	user {unumber} access	
タイトル	一般ユーザのアクセス権の設定	
説明	一般ユーザのアクセス権を設定します。	
書式	user {unumber} access {category} {mode}	
パラメータ	{unumber}	1～3 ユーザ番号

{category}	<p>カテゴリ名</p> <p>'pppoe', 'dhcp', 'static', 'remote', 'system', 'nat', 'upnp', 'wan', 'lan', 'dmz', 'console', 'firewall', 'log', 'securityoption', 'internetaccess', 'application', 'schedule', 'mac_filter', 'url_filter', 'cert_https', 'policy', 'cert_ipsec', 'ipv6_common', 'ipv6_interface', 'ipv6_6to4', 'reboot', 'erase', 'user', 'update', 'maintenance', 'status_pptp', 'status_pppoe', 'show_config', 'show_route', 'show_log', 'show_wan', 'show_upnp', 'show_ipsec', 'show_ipv6_address', 'show_ipv6_route', 'ddns', 'help'</p> <p>('ipv6_interface', 'ipv6_6to4', 'show_ipv6_address', 'show_ipv6_route'は Ver. 1.10以降のファームウェアで設定可能)</p>
{mode}	<p>アクセス権</p> <p>set 参照のみ可</p> <p>get 変更可</p> <p>prohibit アクセス不可 (初期値)</p>

コマンド名	user {unumber} id	
タイトル	一般ユーザ用ユーザ ID の設定	
説明	一般ユーザ用ユーザIDを設定します。	
書式	user {unumber} id {id}	
パラメータ	{unumber}	1～3 ユーザ番号
	{id}	一般ユーザ用ユーザID (半角英数字40文字まで。"no"、"clear"は設定できません。) (初期値 : user、user2、user3)

コマンド名	user {unumber} password	
タイトル	一般ユーザ用パスワードの設定	
説明	一般ユーザ用パスワードを設定します。	
書式	user {unumber} password {password}	
パラメータ	{unumber}	1～3 ユーザ番号
	{password}	一般ユーザ用パスワード (半角英数字40文字まで。"no"、"clear"は設定できません。) (初期値 : 空白)

コマンド名	user {unumber} permit	
タイトル	一般ユーザ用アカウントの設定	
説明	一般ユーザ用アカウントを有効にするか否かを設定します。	
書式	user {unumber} permit {password}	

パラメータ	{unumber}	1～3 ユーザ番号
	{password}	off アクセスを禁止する（初期値） on アクセスを許可する

6. WAN ポート設定コマンド

WAN ポートに関連するパラメータを設定します。

コマンド名	wan ether ip address	
タイトル	WANポートのIPアドレスの設定	
説明	CATVインターネットやADSLのプロバイダから割り当てられたIPアドレスとサブネットマスク長を入力します。 ※IP アドレスは、ドットノテーション (XXX.XXX.XXX.XXX の形式) で入力します。	
書式	wan ether ip address {address} [/{mask}]	
パラメータ	{address}	IPアドレス (xxx.xxx.xxx.xxx、xxxは10進数) (初期値 : 0.0.0.0)
	{mask}	サブネットマスク (xxx.xxx.xxx.xxx、またはマスクビット数) (初期値 : 24)

コマンド名	wan ether ip dnsserver	
タイトル	WANポートのDNSサーバアドレスの設定	
説明	CATV インターネットやADSL のプロバイダから指定されたDNS サーバのIP アドレスを入力します。 ※IP アドレスは、ドットノテーション (XXX.XXX.XXX.XXX の形式) で入力します。	
書式	wan ether ip dnsserver {primary} [{secondary}]	
パラメータ	{primary}	プライマリDNSサーバアドレス (xxx.xxx.xxx.xxx、xxxは10進数) (初期値 : 空白)
	{secondary}	セカンダリDNSサーバアドレス (xxx.xxx.xxx.xxx、xxxは10進数)

コマンド名	wan ether ip gateway	
タイトル	WANポートのゲートウェイアドレスの設定	
説明	CATVインターネットやADSLのプロバイダから指定されたゲートウェイのIPアドレスを入力します。 ※IP アドレスは、ドットノテーション (XXX.XXX.XXX.XXX の形式) で入力します。	
書式	wan ether ip gateway {address}	
パラメータ	{address}	ゲートウェイアドレス (xxx.xxx.xxx.xxx、xxxは10進数) (初期値 : 空白)

コマンド名	wan ether ip dhcp function	
タイトル	WANポートのDHCPクライアント機能の設定	
説明	WANポートのIPアドレスをプロバイダのDHCPサーバから割り当ててもらおうか、プロバイダからあらかじめ通知された固定のIP アドレスを手入力するかを選択します。	
書式	wan ether ip dhcp function {on off}	
パラメータ	{on off}	on DHCPサーバから取得する
		off 手入力 (初期値)

コマンド名	wan ether ip dhcpc id	
タイトル	WANポートのDHCPクライアントIDの設定	
説明	WANポートのIPアドレスをプロバイダのDHCPサーバから割り当ててもらった場合、CATV インターネットやADSLのプロバイダからクライアントIDを指定されているときは、そのクライアントID を入力します。	
書式	wan ether ip dhcpc id {id}	
パラメータ	{id}	クライアントID (英数字64文字まで、初期値 : 空白)

コマンド名	wan ether ip dhcpc release	
タイトル	WANポートのIPアドレスの解放	
説明	WANポートのIPアドレスをプロバイダのDHCPサーバから割り当ててもらっている場合、割り当てられたIPアドレスを解放します。	
書式	wan ether ip dhcpc release	
パラメータ	なし	

コマンド名	wan ether ip dhcpc get	
タイトル	WANポートのIPアドレスの取得	
説明	WANポートのIPアドレスをプロバイダのDHCPサーバから割り当ててもらった場合、IPアドレスを取得します。	
書式	wan ether ip dhcpc get	
パラメータ	なし	

コマンド名	wan ether ip mode	
タイトル	WAN 側接続モード設定	
説明	WAN側接続モードを設定します。 ブロードバンドを使用し、CATVインターネットやPPPoEを採用していないプロバイダと接続するときに、LAN内の端末にグローバルIPアドレスを設定し、NAT変換を行わない環境を構築できます。	
書式	wan ether ip mode {mode}	
パラメータ	{mode}	lan LAN 型接続 terminal 端末接続(初期値)

コマンド名	wan ether ip mtu	
タイトル	WAN 側 MTU 値設定	
説明	WANポートのMTUの値を設定します。	
書式	wan ether ip mtu {size}	
パラメータ	{size}	540～1500 MTU 値 (初期値 : 1500)

コマンド名	wan ether mac mode	
タイトル	WAN 側 MAC アドレスモードの設定	
説明	WAN側MACアドレスモードを設定します。	
書式	wan ether mac mode {mode}	
パラメータ	{mode}	WAN 側 MAC アドレスモード default 工場出荷値 (初期値) manual 手動設定

コマンド名	wan ether mac address	
タイトル	WAN 側 MAC アドレスの設定	
説明	WAN側MACアドレスを設定します。	
書式	wan ether mac address {address}	
パラメータ	{address}	MAC アドレス (xx:xx:xx:xx:xx:xx、xx は 16 進数)

7. DMZ ポート設定コマンド

DMZ ポートに関連するパラメータを設定します。

コマンド名	dmz ip mtu	
タイトル	DMZ ポートの MTU 値の設定	
説明	DMZポートのMTU値を設定します。	
書式	wadmz ip mtu {size}	
パラメータ	{size}	540～1500 MTU 値 (初期値 : 1500)

コマンド名	dmz port	
タイトル	DMZ ポートを使用するか否かの設定	
説明	DMZポートを使用するか否かを設定します。	
書式	dmz port {off on}	
パラメータ	{off on}	off DMZ ポートを使用しない on DMZ ポートを使用する

8. IPsec 設定コマンド

IPsec に関連するパラメータを設定します。

コマンド名	ipsec mode	
タイトル	IPsec 機能を使用するか否かの設定	
説明	<p>IPsec 機能を使用するかどうかを設定します。</p> <p><注意></p> <p>本機能は MR304X、MR404X では使用できません。</p>	
書式	ipsec mode {mode}	
パラメータ	{mode}	<p>off IPsec 機能を使用しない (初期値)</p> <p>on IPsec 機能を使用する</p>

コマンド名	ipsec {pnumber} valid	
タイトル	ポリシーを使用するか否かの設定	
説明	<p>ポリシーを使用するかどうかを設定します。</p> <p>設定内容の変更はIPsec機能のOFF/ONまたは本体の再起動後に有効となります。</p> <p><注意></p> <p>本機能はMR304X、MR404Xでは使用できません。</p>	
書式	ipsec {pnumber} valid {mode}	
パラメータ	{pnumber}	1～50 ポリシー番号
	{mode}	<p>ポリシーを使用するかどうか</p> <p>off ポリシーを使用しない (初期値)</p> <p>on ポリシーを使用する</p>

コマンド名	ipsec {pnumber} policy keymode	
タイトル	鍵管理方式の設定	
説明	<p>鍵管理方式を設定します。</p> <p><注意></p> <p>本機能はMR304X、MR404Xでは使用できません。</p>	
書式	ipsec {pnumber} policy keymode {mode}	
パラメータ	{pnumber}	1～50 ポリシー番号
	{mode}	<p>鍵管理方式の設定</p> <p>manual 手動で鍵設定を行う</p> <p>ike IKEを使用する (初期値)</p>

コマンド名	ipsec {pnumber} policy localip	
タイトル	ローカルIPアドレスの設定	
説明	ローカルIPアドレスを設定します。 <注意> 本機能はMR304X、MR404Xでは使用できません。	
書式	ipsec {pnumber} policy localip {address1} [/{mask}] -{address2}]	
パラメータ	{pnumber}	1～50 ポリシー番号
	{address1}	ローカルIP(開始)アドレス (xxx.xxx.xxx.xxx、xxxは10進数) ('*'は全て)
	{mask}	ローカルIPネットマスク (xxx.xxx.xxx.xxx、xxxは10進数)、またはローカルIPネットマスク長
	{address2}	ローカルIP終了アドレス (xxx.xxx.xxx.xxx、xxxは10進数)

コマンド名	ipsec {pnumber} policy remoteip	
タイトル	リモートIPアドレスの設定	
説明	リモートIPアドレスを設定します。 <注意> 本機能はMR304X、MR404Xでは使用できません。	
書式	ipsec {pnumber} policy remoteip {address1} [/{mask}] -{address2}]	
パラメータ	{pnumber}	1～50 ポリシー番号
	{address1}	リモートIP(開始)アドレス (xxx.xxx.xxx.xxx、xxxは10進数) ('*'は全て)
	{mask}	リモートIPネットマスク (xxx.xxx.xxx.xxx、xxxは10進数)、またはリモートIPネットマスク長
	{address2}	リモートIP終了アドレス (xxx.xxx.xxx.xxx、xxxは10進数)

コマンド名	ipsec {pnumber} policy natvpnip	
タイトル	NAT+VPN IPアドレスの設定	
説明	NAT+VPN IPアドレスを設定します。 <注意> 本機能はMR304X、MR404Xでは使用できません。	
書式	ipsec {pnumber} policy remoteip {address1} [/{mask}] -{address2}]	
パラメータ	{pnumber}	1～50 ポリシー番号
	{address1}	NAT+VPN IP(開始)アドレス (xxx.xxx.xxx.xxx、xxxは10進数) ('*'は全て)
	{mask}	NAT+VPN IPネットマスク (xxx.xxx.xxx.xxx、xxxは10進数)、またはNAT+VPN IPネットマスク長
	{address2}	NAT+VPN IP終了アドレス (xxx.xxx.xxx.xxx、xxxは10進数)

コマンド名	ipsec {pnumber} policy dstgwip	
タイトル	リモートゲートウェイアドレスの設定	
説明	リモートゲートウェイのIPアドレスを設定します。 <注意> 本機能はMR304X、MR404Xでは使用できません。	
書式	ipsec {pnumber} policy dstgwip {ipaddress}	
パラメータ	{pnumber}	1～50 ポリシー番号
	{ipaddress}	リモートゲートウェイIPアドレス (xxx.xxx.xxx.xxx、xxxは10進数) (*は動的ゲートウェイ指定) (初期値：空白)

コマンド名	ipsec {pnumber} policy auth	
タイトル	認証プロトコルの設定	
説明	認証プロトコルを設定します。 <注意> 本機能はMR304X、MR404Xでは使用できません。	
書式	ipsec {pnumber} policy auth {protocol}	
パラメータ	{pnumber}	1～50 ポリシー番号
	{protocol}	認証プロトコルの設定 off 使用しない esp ESPを使用する (初期値) ah AHを使用する

コマンド名	ipsec {pnumber} policy enc	
タイトル	暗号化プロトコルの設定	
説明	暗号化プロトコルを設定します。 <注意> 本機能はMR304X、MR404Xでは使用できません。	
書式	ipsec {pnumber} policy enc {protocol}	
パラメータ	{pnumber}	1～50 ポリシー番号
	{protocol}	暗号化プロトコルの設定 off 使用しない esp ESPを使用する (初期値)

コマンド名	ipsec {pnumber} ike localid	
-------	-----------------------------	--

タイトル	IKEローカル認証IDの設定	
説明	IKEローカル認証IDを設定します。 <注意> 本機能はMR304X、MR404Xでは使用できません。	
書式	ipsec {pnumber} ike localid {type} [{id}]	
パラメータ	{pnumber}	1～50 ポリシー番号
	{type}	ローカル認証IDタイプ
		ip ローカル認証IDにIPアドレスを使用 (初期値)
		fqdn ローカル認証IDにFQDNを使用 ufqdn ローカル認証IDにUSER FQDNを使用
{id}	ローカル認証ID	

コマンド名	ipsec {pnumber} ike remoteid	
タイトル	IKEリモート認証IDの設定	
説明	IKEリモート認証IDを設定します。 <注意> 本機能はMR304X、MR404Xでは使用できません。	
書式	ipsec {pnumber} ike remoteid {type} [{id}]	
パラメータ	{pnumber}	1～50 ポリシー番号
	{type}	リモート認証IDタイプ
		ip リモート認証IDにIPアドレスを使用 (初期値)
		fqdn リモート認証IDにFQDNを使用 ufqdn リモート認証IDにUSER FQDNを使用
{id}	リモート認証ID	

コマンド名	ipsec {pnumber} ike dir	
タイトル	IKE接続方向の設定	
説明	IKE接続方向を設定します。 <注意> 本機能はMR304X、MR404Xでは使用できません。	
書式	ipsec {pnumber} ike dir {direction}	
パラメータ	{pnumber}	1～50 ポリシー番号

	{direction}	IKE接続方向 interactiv 双方向（初期値） initiator 始動者 responder 応答者
--	-------------	--

コマンド名	ipsec {pnumber} ike auth	
タイトル	IKE相手認証方式の設定	
説明	IKE相手認証方式を設定します。 <注意> 本機能はMR304X、MR404Xでは使用できません。	
書式	ipsec {pnumber} ike auth {method}	
パラメータ	{pnumber}	1～50 ポリシー番号
	{method}	IKE相手認証方式 psk 事前共有鍵を使用する（初期値） sig 証明書を使用する

コマンド名	ipsec {pnumber} ike psk	
タイトル	IKE事前認証鍵の設定	
説明	IKE事前認証鍵を設定します。 <注意> 本機能はMR304X、MR404Xでは使用できません。	
書式	ipsec {pnumber} ike psk {psk}	
パラメータ	{pnumber}	1～50 ポリシー番号
	{psk}	IKE事前認証鍵（初期値：なし）

コマンド名	ipsec {pnumber} ike hash	
タイトル	IKEハッシュアルゴリズムの設定	
説明	IKEハッシュアルゴリズムを設定します。 <注意> 本機能はMR304X、MR404Xでは使用できません。	
書式	ipsec {pnumber} ike hash {algorism}	
パラメータ	{pnumber}	1～50 ポリシー番号
	{algorism}	IKEハッシュアルゴリズム md5 MD5を使用する（初期値） sha1 SHA1を使用する

コマンド名	ipsec {pnumber} ike enc	
タイトル	IKE暗号化アルゴリズムの設定	
説明	IKE暗号化アルゴリズムを設定します。 <注意> 本機能はMR304X、MR404Xでは使用できません。	
書式	ipsec {pnumber} ike enc {algorism}	
パラメータ	{pnumber}	1～50 ポリシー番号
	{algorism}	IKE暗号化アルゴリズム des DESを使用する 3des 3DESを使用する (初期値)

コマンド名	ipsec {pnumber} ike mode	
タイトル	IKE交換モードの設定	
説明	IKE交換モードを設定します。 <注意>本機能はMR504シリーズでは使用できません。	
書式	ipsec {pnumber} ike mode {mode}	
パラメータ	{pnumber}	1～50 ポリシー番号
	{mode}	IKE交換モード main メインモードを使用する (初期値) aggressive アグレッシブモードを使用する

コマンド名	ipsec {pnumber} ike keepalive	
タイトル	IKEキープアライブの設定	
説明	IKEキープアライブのパラメータを設定します。 <注意> 本機能はMR304X、MR404Xでは使用できません。	
書式	ipsec {pnumber} ike keepalive {mode} [d={dst}] [r={retry}] [i={interval}]	
パラメータ	{pnumber}	1～50 ポリシー番号
	{mode}	動作モード on IKEキープアライブを使用する off IKEキープアライブを使用しない (初期値)
	{dst}	Ping送信相手先IPアドレス (xxx.xxx.xxx.xxx、xxxは10進数) (初期値: 空白)
	{retry}	再送回数 (初期値: 6)
	{interval}	Ping送信間隔 (初期値: 10)

コマンド名	ipsec {pnumber} ike autocon	
タイトル	IKE自動接続機能を使用するか否かの設定	
説明	IKE自動接続機能を使用するかどうかを設定します。 <注意> 本機能はMR304X、MR404Xでは使用できません。	
書式	ipsec {pnumber} ike autocon {mode}	
パラメータ	{pnumber}	1～50 ポリシー番号
	{mode}	off IKE自動接続機能を使わない（初期値） on IKE自動接続機能を使う

コマンド名	ipsec {pnumber} ike retry	
タイトル	ISAKMPリトライの設定	
説明	ISAKMPリトライのパラメータを設定します。 <注意> 本機能はMR304X、MR404Xでは使用できません。	
書式	ipsec {pnumber} ike retry [r={retry}] [i={interval}]	
パラメータ	{pnumber}	1～50 ポリシー番号
	{retry}	ISAKMPパケット再送回数（初期値：5）
	{interval}	ISAKMPパケット再送間隔（初期値：10）

コマンド名	ipsec {pnumber} ike lifetime isakmp	
タイトル	ISAKMP SAの有効期間の設定	
説明	ISAKMP SAの有効期間を設定します。 <注意> 本機能はMR304X、MR404Xでは使用できません。	
書式	ipsec {pnumber} ike lifetime isakmp {second}	
パラメータ	{pnumber}	1～50 ポリシー番号
	{second}	1～9999999 有効時間（単位時間：秒）（初期値：28800）

コマンド名	ipsec {pnumber} ike lifetime ipsec	
タイトル	IPsec SAの有効期間の設定	
説明	IPsec SAの有効期間を設定します。 <注意> 本機能はMR304X、MR404Xでは使用できません。	
書式	ipsec {pnumber} ike lifetime ipsec {second}	

パラメータ	{pnumber}	1～50 ポリシー番号
	{second}	1～9999999 有効時間（単位時間：秒）（初期値：28800）

コマンド名	ipsec {pnumber} ike dh	
タイトル	DHグループの設定	
説明	DHグループを設定します。 <注意> 本機能はMR304X、MR404Xでは使用できません。	
書式	ipsec {pnumber} ike dh {group}	
パラメータ	{pnumber}	1～50 ポリシー番号
	{group}	DHグループ grp1 DHグループ1を使用する grp2 DHグループ2を使用する（初期値）

コマンド名	ipsec {pnumber} ike pfs	
タイトル	IKE PFSの設定	
説明	IKE PFSのパラメータを設定します。 <注意> 本機能はMR304X、MR404Xでは使用できません。	
書式	ipsec {pnumber} ike pfs {mode} [{grp}]	
パラメータ	{pnumber}	1～50 ポリシー番号
	{mode}	IKE PFSの動作モード on IKE PFSを使用する off IKE PFSを使用しない（初期値）
	{grp}	DHグループ grp1 DHグループ1を使用する grp2 DHグループ2を使用する

コマンド名	ipsec {pnumber} ah auth	
タイトル	AHハッシュアルゴリズムの設定	
説明	AHハッシュアルゴリズムを設定します。 <注意> 本機能はMR304X、MR404Xでは使用できません。	
書式	ipsec {pnumber} ah auth {algorism} [i={inkey}] [o={outkey}]	
パラメータ	{pnumber}	1～50 ポリシー番号

	{algorism}	ハッシュアルゴリズム md5 MD5を使用する sha1 SHA1を使用する
	{inkey}	インバウンド用鍵
	{outkey}	アウトバウンド用鍵

コマンド名	ipsec {pnumber} ah spi	
タイトル	AH SPIの設定	
説明	AH SPIを設定します。 <注意> 本機能はMR304X、MR404Xでは使用できません。	
書式	ipsec {pnumber} ah spi [i={in}] [o={out}]	
パラメータ	{pnumber}	1～50 ポリシー番号
	{in}	インバウンドのSPI SA値
	{out}	アウトバウンドのSPI SA値

コマンド名	ipsec {pnumber} esp auth	
タイトル	ESPハッシュアルゴリズムの設定	
説明	ESPハッシュアルゴリズムを設定します。 <注意> 本機能はMR304X、MR404Xでは使用できません。	
書式	ipsec {pnumber} esp auth {algorism} [i={inkey}] [o={outkey}]	
パラメータ	{pnumber}	1～50 ポリシー番号
	{algorism}	ハッシュアルゴリズム md5 MD5を使用する sha1 SHA1を使用する
	{inkey}	インバウンド用鍵
	{outkey}	アウトバウンド用鍵

コマンド名	ipsec {pnumber} esp enc	
タイトル	ESP暗号化アルゴリズムの設定	
説明	ESP暗号化アルゴリズムを設定します。 <注意> 本機能はMR304X、MR404Xでは使用できません。	
書式	ipsec {pnumber} esp enc {algorism} [i={inkey}] [o={outkey}]	

パラメータ	{pnumber}	1～50 ポリシー番号
	{algorism}	暗号化アルゴリズム des DESを使用する 3des 3DESを使用する null NULLを使用する
	{inkey}	インバウンド用鍵
	{outkey}	アウトバウンド用鍵

コマンド名	ipsec {pnumber} esp spi	
タイトル	ESP SPIの設定	
説明	ESP SPIを設定します。 <注意> 本機能はMR304X、MR404Xでは使用できません。	
書式	ipsec {pnumber} esp spi [i={in}] [o={out}]	
パラメータ	{pnumber}	1～50 ポリシー番号
	{in}	インバウンドのSPI SA値
	{out}	アウトバウンドのSPI SA値

コマンド名	ipsec {pnumber} pmtud dfbit	
タイトル	IPSecパケットのDFフラグの設定	
説明	IPSecパケットのDFフラグの扱いを設定します。 <注意> 本機能はMR304X、MR404Xでは使用できません。	
書式	ipsec {pnumber} pmtud dfbit {mode}	
パラメータ	{pnumber}	1～50 ポリシー番号
	{mode}	DFビットの扱い copy DFビットをコピーする (初期値) off DFビットを常にクリアする on DFビットを常にセットする

コマンド名	ipsec {pnumber} mss mode	
タイトル	IPSecパケットのMSS変換設定	
説明	IPSecパケットのMSS変換を行うか否かを設定します。 <注意> 本機能はMR304X、MR404Xでは使用できません。	

書式	ipsec {pnumber} mss mode {off on}	
パラメータ	{pnumber}	1～50 ポリシー番号
	{mode}	off MSS値の変換を行わない（初期値） on MSS値の変換を行う

コマンド名	ipsec {pnumber} mss size	
タイトル	IPSecパケットのMSS値の設定	
説明	IPSecパケットのMSS変換を行う際のMSS値を設定します。 <注意> 本機能はMR304X、MR404Xでは使用できません。	
書式	ipsec {pnumber} mss size {size}	
パラメータ	{pnumber}	1～50 ポリシー番号
	{size}	500～1398 MSS値 (Byte)（初期値：1352）

コマンド名	ipsec {pnumber} natt mode	
タイトル	NAT-Traversal機能を使用するか否かの設定	
説明	NAT-Traversal機能を使用するか否かを設定します。 <注意> 本機能はMR304X、MR404Xでは使用できません。	
書式	ipsec {pnumber} natt mode {off on}	
パラメータ	{pnumber}	1～50 ポリシー番号
	{off on}	off NAT-Traversal機能を使用しない（初期値） on NAT-Traversal機能を使用する

コマンド名	ipsec {pnumber} natt nego	
タイトル	IKEネゴシエーション機能を使用するか否かの設定	
説明	IKEネゴシエーション機能を使用するか否かを設定します。 <注意> 本機能はMR304X、MR404Xでは使用できません。	
書式	ipsec {pnumber} natt nego {off on}	
パラメータ	{pnumber}	1～50 ポリシー番号
	{off on}	off IKEネゴシエーション機能を使用しない（初期値） on IKEネゴシエーション機能を使用する

コマンド名	ipsec {pnumber} natt keepalive timeout	
-------	--	--

タイトル	NAT-Keepalive送信待ちタイムアウトまでの時間の設定	
説明	NAT-Keepalive送信待ちタイムアウトまでの時間を設定します。 <注意> 本機能はMR304X、MR404Xでは使用できません。	
書式	ipsec {pnumber} natt keepalive timeout {time}	
パラメータ	{pnumber}	1～50 ポリシー番号
	{time}	1～600 送信待ちタイムアウトまでの時間 (秒) (初期値 : 20)

9. IPv6 設定コマンド

IPv6 に関連するパラメータを設定します。

コマンド名	ipv6 mode	
タイトル	IPv6 動作モードの設定 (Ver. 1.10 より前のファームウェアのみ)	
説明	IPv6 の動作モードを設定します。	
書式	ipv6 mode {mode}	
パラメータ	{mode}	off IPv6 を使用しない (初期値) pass IPv6 をパズスルーする

コマンド名	ipv6 common filter	
タイトル	IPv6 フィルタの登録 (Ver. 1.10 以降のファームウェア)	
説明	<p>フィルタを登録します。最大64 個のフィルタを登録できます。</p> <p>フィルタを登録すると、本製品が受信したパケットごとにフィルタと比較します。比較は、フィルタ番号の小さいフィルタから順に行われ、パケットは最初に該当したフィルタの条件に従って処理されます。該当するフィルタがないパケットは通過します。</p> <p>また、フィルタが登録されていない場合は、すべてのアクセスが許可されます。</p> <p>フィルタを登録する書式はプロトコルにICMPv6を使用する場合とアプリケーション設定で登録された内容を使用する場合で異なります。</p> <p>多くの部分はIPフィルタと同様ですので、詳細はそちらを確認して下さい。</p>	
書式	<pre> ipv6 common filter {fnumber} {type} {dir} {srcaddr} [{srcmask}] {dstaddr} [{dstmask}] {protocol} [{srcport} {dstport}] {interface} [{log} {schedule}] ipv6 common filter {fnumber} {type} {dir} {srcaddr} [-{endsrcaddr}] {dstaddr} [-{enddstaddr}] {protocol} [{srcport} {dstport}] {interface} [{log} {schedule}] ipv6 common filter {fnumber} {type} {dir} {srcaddr} [{srcmask}] {dstaddr} [{dstmask}] icmpv6 {icmpv6type} {interface} [{log} {schedule}] ipv6 common filter {fnumber} {type} {dir} {srcaddr} [-{endsrcaddr}] {dstaddr} [-{enddstaddr}] icmpv6 {icmpv6type} {interface} [{log} {schedule}] ipv6 common filter {fnumber} {type} {dir} {srcaddr} [{srcmask}] {dstaddr} [{dstmask}] {appname} {interface} [{log} {schedule}] ipv6 common filter {fnumber} {type} {dir} {srcaddr} [-{endsrcaddr}] {dstaddr} [-{enddstaddr}] {appname} {interface} [{log} {schedule}] </pre>	
パラメータ	{fnumber}	1～64 フィルタ番号
	{type}	フィルタタイプ pass 一致すれば通す reject 一致すれば破棄する

{dir}	方向 in 受信時にフィルタリングする out 送信時にフィルタリングする
{srcaddr}	送信元アドレス（'*'は全て）
{srcmask}	マスクビット数
{endsrcaddr}	範囲指定
{dstaddr}	送信先アドレス（'*'は全て）
{dstmask}	マスクビット数
{enddstaddr}	範囲指定
{protocol}	プロトコル番号またはニーモニック ニーモニック... 'udp', 'tcp', 'tcepest', 'tcpfin', 'icmpv6', 'gre', 'ipencap', 'esp' （'*'は全て、'tcepest'はSYN、'tcpfin'はFIN/RSTパケットを対象）
{srcport}	送信元ポート番号（'*'は全て、範囲指定は'-'で区切って入力）
{dstport}	送信先ポート番号（'*'は全て、範囲指定は'-'で区切って入力）
{icmptype}	ICMPv6タイプ番号
{appname}	アプリケーション名
{interface}	ether1 ether1 (LANポート) に対するフィルタ ether2 ether2 (WANポート) に対するフィルタ ether3 ether3 (DMZポート) に対するフィルタ 6to4 6to4に対するフィルタ
{log}	log ログを出力する（省略時の設定） nolog ログを出力しない
{schedule}	anysch 常に有効（省略時の設定） offsch 時間内無効 onsch 時間内有効

コマンド名	ipv6 common mode	
タイトル	IPv6 動作モードの設定 (Ver. 1.10以降のファームウェア)	
説明	IPv6 の動作モードを設定します。	
書式	ipv6 common mode {mode}	
パラメータ	{mode}	off IPv6 を使用しない（初期値） pass IPv6 をパススルーする on IPv6 を使用する

コマンド名	ipv6 common pmtu interval	
タイトル	Path MTU 更新間隔の設定 (Ver. 1.10 以降のファームウェア)	
説明	Path MTU 更新間隔を設定します。	
書式	ipv6 common pmtu interval {time}	
パラメータ	{time}	300～1800 Path MTU 更新間隔(秒) (初期値 : 600)

コマンド名	ipv6 common route	
タイトル	IPv6 ルート設定 (Ver. 1.10 以降のファームウェア)	
説明	IPv6経路情報を追加登録します。IPv6 経路情報は32 個まで登録できます。登録した経路がすでにIPv6 経路情報に存在する場合は追加されません。	
書式	ipv6 common route {prefix/prefixlen/hops interface [nexthop]}	
パラメータ	{prefix}	プレフィックス (xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx, xxxxは16進数)
	{prefixlen}	0～128 プレフィックス長
	{hops}	1～15 ホップカウント
	{interface}	インターフェースID ether1 ETHER1 (LANポート) ether2 ETHER2 (WANポート) ether3 ETHER3 (DMZポート) 6to4 6to4
	{nexthop}	次ホップのIPv6リンクローカルアドレス (xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx, xxxxは16進数)
設定例	ETHER2 (WANポート)上に存在するIPv6リンクローカルアドレス「fe80::211:22ff:fe33:4455」のルータを経由するデフォルトルート (ホップカウント「7」) を登録するとき → ipv6 common route 0::0/0/7 ether2 fe80::211:22ff:fe33:4455	

コマンド名	ipv6 etherN address (N=1、2、3)	
タイトル	IPv6 アドレスの設定 (Ver. 1.10 以降のファームウェア)	
説明	IPv6アドレスを設定します。IPv6アドレスはインターフェース毎に5 個まで登録できます。	
書式	ipv6 etherN address {anumber type address/pflen [ptime vtime] [lflag] [aflag]}	
パラメータ	{anumber}	1 ～ 5 アドレス番号
	{type}	アドレスタイプ manual ユニキャストアドレス (手動設定) eui64 ユニキャストアドレス (EUI-64使用) anycast エニーキャストアドレス
	{address}	IPv6アドレス (xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx, xxxxは16進数)

	{prefixlen}	48~64 プレフィックス長
	{ptime}	0~4294967294、-1 プレフィックスpreferred lifetime(-1:無期限) (省略時:604800)
	{vtime}	0~4294967294、-1 プレフィックスvalid lifetime(-1:無期限) (省略時:2592000)
	{lflags}	プレフィックス L(on-link)フラグ lflag Lフラグをセットする (省略時) noiflag Lフラグをセットしない
	{aflags}	プレフィックス A(autonomous address-configuration)フラグ aflag Aフラグをセットする (省略時) noaflag Aフラグをセットしない
設定例	ETHER1 (LANポート)のアドレス番号3にIPv6グローバルユニキャストアドレス「2000::1/64」 (その他のパラメータは省略時設定) を設定するとき → <code>ipv6 ether1 address 3 manual 2000::1/64</code>	

コマンド名	ipv6 etherN dad nsnum (N=1、2、3)	
タイトル	アドレス重複検査時の近隣要請送信回数設定 (Ver. 1.10以降のファームウェア)	
説明	アドレス重複検査時の近隣要請送信回数を設定します。	
書式	ipv6 etherN dad nsnum {number}	
パラメータ	{number}	1~8 アドレス重複検査時の近隣要請送信回数 (初期値:3)

コマンド名	ipv6 etherN dltime (N=1、2、3)	
タイトル	RAパケットのAdvDefaultLifeTime設定 (Ver. 1.10以降のファームウェア)	
説明	RAパケットのAdvDefaultLifeTimeを設定します。Default Lifetimeを設定する場合はRA送信間隔最大値以上の値を設定します。	
書式	ipv6 etherN dltime {time}	
パラメータ	{time}	0 デフォルトルータにならない 1~9000 Default Lifetime(秒) (初期値:1800)

コマンド名	ipv6 etherN hoplimit (N=1、2、3)	
タイトル	RAパケットのAdvCurHopLimit設定 (Ver. 1.10以降のファームウェア)	
説明	RAパケットのAdvCurHopLimitを設定します。	
書式	ipv6 etherN hoplimit {value}	
パラメータ	{value}	1~255 Hoplimit (初期値:64)

コマンド名	ipv6 etherN ifid (N=1、2、3)	
タイトル	インターフェースIDの設定 (Ver. 1.10以降のファームウェア)	

説明	インターフェース ID を設定します。	
書式	ipv6 etherN ifid {IFID}	
パラメータ	{IFID}	IPv6 アドレス生成用インターフェース ID (xxxx:xxxx:xxxx:xxxx, xxxx は 16 進数)

コマンド名	ipv6 etherN intmax (N=1、2、3)	
タイトル	RA パケットの MaxRtrAdvInterval 設定 (Ver. 1.10 以降のファームウェア)	
説明	RA パケットの MaxRtrAdvInterval を設定します。	
書式	ipv6 etherN intmax {value}	
パラメータ	{value}	4~1800 RA 送信間隔最大値 (秒) (初期値 : 600)

コマンド名	ipv6 etherN intmin (N=1、2、3)	
タイトル	RA パケットの MinRtrAdvInterval 設定 (Ver. 1.10 以降のファームウェア)	
説明	RA パケットの MinRtrAdvInterval を設定します。RA 送信間隔最小値を指定する場合は RA 送信間隔最大値の 75%以下の値を設定します。	
書式	ipv6 etherN intmin {value}	
パラメータ	{value}	0 RA 送信間隔最小値 (自動) 3~1350 RA 送信間隔最小値 (秒) (初期値 : 0(自動))

コマンド名	ipv6 etherN mflag (N=1、2、3)	
タイトル	RA パケットの M フラグの設定 (Ver. 1.10 以降のファームウェア)	
説明	RA パケットの M フラグを設定します。	
書式	ipv6 etherN mflag {off on}	
パラメータ	{off on}	off RA パケットに M フラグをセットしない (初期値) on RA パケットに M フラグをセットする

コマンド名	ipv6 etherN mtu (N=1、2、3)	
タイトル	MTU の設定 (Ver. 1.10 以降のファームウェア)	
説明	MTU を設定します。	
書式	ipv6 etherN mtu {value}	
パラメータ	{value}	1280~1500 MTU 値 (初期値 : 1500)

コマンド名	ipv6 etherN oflag (N=1、2、3)	
タイトル	RA パケットの O フラグの設定 (Ver. 1.10 以降のファームウェア)	
説明	RA パケットの O フラグを設定します。	
書式	ipv6 etherN oflag {off on}	

パラメータ	{off on}	off RA パケットに 0 フラグをセットしない (初期値) on RA パケットに 0 フラグをセットする
-------	----------	--

コマンド名	ipv6 etherN reach (N=1、2、3)	
タイトル	RA パケットの AdvReachableTime 設定 (Ver. 1.10 以降のファームウェア)	
説明	RA パケットの AdvReachableTime を設定します。	
書式	ipv6 etherN reach {value}	
パラメータ	{value}	0~3600000 Reachable Time 値(ミリ秒) (初期値 : 0)

コマンド名	ipv6 etherN retrans (N=1、2、3)	
タイトル	RA パケットの AdvRetransTimer 設定 (Ver. 1.10 以降のファームウェア)	
説明	RA パケットの AdvRetransTimer を設定します。	
書式	ipv6 etherN retrans {value}	
パラメータ	{value}	0~3600000 Retrans Timer 値(ミリ秒) (初期値 : 0)

コマンド名	ipv6 etherN sendra (N=1、2、3)	
タイトル	RA パケット送信の設定 (Ver. 1.10 以降のファームウェア)	
説明	RA パケット送信を設定します。	
書式	ipv6 etherN sendra {off on}	
パラメータ	{off on}	off RA パケットを送信しない (初期値) on RA パケットを送信する

コマンド名	ipv6 etherN mld llqcnt (N=1、2、3)	
タイトル	Last Listener Query Count の設定	
説明	Last Listener Query Count の設定をします。	
書式	ipv6 etherN mld llqint {value}	
パラメータ	{value}	2~16 Last Listener Query Count 値 (0:自動) (初期値 : 0)

コマンド名	ipv6 etherN mld llqint (N=1、2、3)	
タイトル	Last Listener Query Interval の設定	
説明	Last Listener Query Interval の設定をします。	
書式	ipv6 etherN mld llqint {value}	
パラメータ	{value}	100~60000 Last Listener Query Interval 値(ミリ秒) (初期値 : 1000)

コマンド名	ipv6 etherN mld mode (N=1、2、3)	
-------	--------------------------------	--

タイトル	インタフェースモードの設定	
説明	インタフェースモードの設定をします。	
書式	ipv6 etherN mld mode {mode}	
パラメータ	{mode}	off OFF (初期値) host ホストモード router ルータモード

コマンド名	ipv6 etherN mld qint (N=1、2、3)	
タイトル	Query Interval の設定	
説明	Query Interval の設定を設定します。	
書式	ipv6 etherN mld llqint {value}	
パラメータ	{value}	10～600 Query Interval 値 (単位: 秒) (初期値: 125)

コマンド名	ipv6 etherN mld rint (N=1、2、3)	
タイトル	Query Response Interval の設定	
説明	Query Response Interval の設定をします。	
書式	ipv6 etherN mld rint {avalue}	
パラメータ	{value}	1000～100000 Query Interval 値 (単位: ミリ秒) (初期値: 10000)

コマンド名	ipv6 etherN mld robust (N=1、2、3)	
タイトル	Robustness Variable の設定	
説明	Robustness Variable の設定をします。	
書式	ipv6 etherN mld robust {vaieue}	
パラメータ	{value}	2～16 Last Listener Query Count 値 (0:自動) (初期値: 2)

コマンド名	ipv6 etherN mld stqcnt (N=1、2、3)	
タイトル	Startup Query Count の設定	
説明	Startup Query Count の設定をします。	
書式	ipv6 etherN mld stqcnt {value}	
パラメータ	{value}	2～16 Last Listener Query Count 値 (0:自動) (初期値: 0)

コマンド名	ipv6 etherN mld stqint (N=1、2、3)	
タイトル	Startup Query Interval の設定	
説明	Startup Query Interval の設定をします。	
書式	ipv6 etherN mld stqint {value}	

パラメータ	{value}	1~150 Startup Query Interval 値 (単位 : 秒, 0 : 自動) (初期値 : 0)
-------	---------	---

コマンド名	ipv6 etherN mld uslctr (N=1、2、3)	
タイトル	Unsolicited Report Interval の設定	
説明	Unsolicited Report Interval の設定をします。	
書式	ipv6 etherN mld uslctr {value}	
パラメータ	{value}	100~60000 Unsolicited Report Interval 値 (単位 : ミリ秒) (初期値 : 1000)

コマンド名	ipv6 6to4 router	
タイトル	6to4 ルータのアドレス (Ver. 1.10 以降のファームウェア)	
説明	6to4 ルータのアドレスを設定します。	
書式	ipv6 6to4 router {address}	
パラメータ	{address}	6to4 ルータアドレス、6to4 ルータ名 (半角英数字 64 文字まで) (初期値 : なし)

10. Dynamic DNS 設定コマンド

Dynamic DNS に関する設定を行います。

コマンド名	dyip mode	
タイトル	Dynamic DNS を使用するか否かの設定	
説明	Dynamic DNS を使用するかどうかを設定します。	
書式	dyip mode {off on}	
パラメータ	{off on}	off Dynamic DNS を使用しない (初期値) on Dynamic DNS を使用する

コマンド名	dyip interface	
タイトル	Dynamic DNS で登録するインタフェースの設定	
説明	Dynamic DNS で登録する IP アドレスのインタフェースを設定します。	
書式	dyip interface {ifname} [{rnumber}]	
パラメータ	{ifname}	local LAN 側インタフェース remote WAN 側 (接続相手先-PPTP, PPPoE) インタフェース
	{rnumber}	0~15 相手先番号

コマンド名	dyip domain	
タイトル	Dynamic DNS で登録するドメイン名の設定	
説明	Dynamic DNS で登録するドメイン名を半角英数字 (32 文字まで) で設定します。	
書式	dyip domain {domain}	
パラメータ	{domain}	ドメイン名 (初期値: なし)

コマンド名	dyip server	
タイトル	Dynamic DNS で使用するサーバの設定	
説明	Dynamic DNS で使用するサーバの IP アドレスまたはサーバ名を設定します。	
書式	dyip server {address}	
パラメータ	{address}	サーバの IP アドレス (xxx.xxx.xxx.xxx, xxx は 10 進数) またはサーバ名 (半角英数字 64 文字まで。) (初期値: なし)

コマンド名	dyip user	
タイトル	Dynamic DNS で登録を行う際のユーザ ID の設定	
説明	Dynamic DNS で登録を行う際のユーザ ID を半角英数字 (32 文字まで) で設定します。	
書式	dyip user {user}	

パラメータ	{user}	ユーザ ID (初期値 : なし)
-------	--------	-------------------

コマンド名	dyip password	
タイトル	Dynamic DNS で登録を行う際のユーザパスワードの設定	
説明	Dynamic DNS で登録を行う際のユーザパスワードを半角英数字 (32 文字まで) で設定します。	
書式	dyip password {password}	
パラメータ	{password}	ユーザパスワード (初期値 : なし)

11. MAC アドレスフィルタ設定コマンド

MAC アドレスフィルタに関する設定を行います。

コマンド名	mac filter mode	
タイトル	MAC アドレスフィルタを使用するか否かの設定	
説明	<p>MAC アドレスフィルタを使用するかどうかを設定します。</p> <p>MAC アドレスフィルタを使用する場合、登録された MAC アドレスを持つ端末のみがルータおよびその接続先にアクセス可能となります。また、設定された内容は本体の再起動後に有効となります。</p>	
書式	mac filter mode {off on}	
パラメータ	{off on}	<p>off MAC アドレスフィルタを使用しない (初期値)</p> <p>on MAC アドレスフィルタを使用する</p>

コマンド名	mac filter address	
タイトル	MAC アドレスフィルタの登録	
説明	<p>MAC アドレスフィルタを登録します。</p> <p>登録されたフィルタは本体の再起動後に有効となります。</p>	
書式	mac filter address {number} {address}	
パラメータ	{number}	0~31 フィルタ番号
	{address}	MAC アドレス (xx:xx:xx:xx:xx:xx, xx は 16 進数) (初期値 : なし)

12. アプリケーション登録設定コマンド

アプリケーション登録を行います。

コマンド名	service table	
タイトル	アプリケーション情報の登録	
説明	アプリケーション情報を登録します。アプリケーション情報は64 個まで登録できます。登録した内容がすでに登録済みの内容と重複する場合は追加できません。	
書式	service table {number} {mnemonic} {port_start} {port_end} {icmp_type} {protocol}	
パラメータ	{number}	1~64 エントリーナンバー
	{mnemonic}	ニーモニック (最大半角31文字まで)
	{port_start}	開始ポート番号
	{port_end}	終了ポート番号
	{icmp_type}	ICMPタイプ
	{protocol}	Tcp TCP udp UDP tcp_udp TCP/UDPの両方 icmp ICMP icmpv6 ICMPv6

13. ログ設定コマンド

ログに関する設定を行います。

コマンド名	logoption syslog debug	
タイトル	DEBUG レベルのログを出力するかどうかの設定	
説明	各種デバッグ情報を出力します。	
書式	logoption syslog debug {off on}	
パラメータ	{off on}	off DEBUG レベルのログを出力しない (初期値) on DEBUGレベルのログを出力する

コマンド名	logoption syslog facility	
タイトル	SYSLOG ファシリティの設定	
説明	使用するSYSLOG サーバ機能のファシリティ (0 ~ 23) を入力します。 通常は「1」 (user) を設定します。	
書式	logoption syslog facility {facility}	
パラメータ	{facility}	0~23 SYSLOGファシリティ (初期値: 1)

コマンド名	logoption syslog host	
タイトル	SYSLOG を受けるホストの IP アドレスの設定	
説明	SYSLOG サーバ機能に対応しているパソコンのIP アドレスを設定します。 設定したパソコンに、接続/切断ログ情報やデバッグ情報、フィルタリング情報を転送して、ファイルとして一括管理できます。 ※IP アドレスは、ドットノーテーション (XXX.XXX.XXX.XXX の形式) で入力します。	
書式	logoption syslog host {address}	
パラメータ	{address}	SYSLOGを送るホストアドレス (初期値: 空白)

コマンド名	logoption syslog info	
タイトル	INFO レベルのログを出力するかどうかの設定	
説明	INFOレベルのログ情報を出力します。	
書式	logoption syslog info {off on}	
パラメータ	{off on}	off INFO レベルのログを出力しない (初期値) on INFOレベルのログを出力する

コマンド名	logoption syslog notice	
タイトル	NOTICE レベルのログを出力するかどうかの設定	

説明	NOTICEレベルのログ情報を出力します。	
書式	logoption syslog notice {off on}	
パラメータ	{off on}	off NOTICEレベルのログを出力しない（初期値） on NOTICEレベルのログを出力する

コマンド名	logoption put	
タイトル	カテゴリ毎のログを出力するかどうかの設定	
説明	カテゴリ毎のログを出力するかどうかを設定します。	
書式	logoption put {category} {on off}	
パラメータ	{category}	DoS DoS 攻撃ログ internet_access インターネットアクセスログ firewall ファイアウォールログ access_control アクセスコントロールログ VPN VPNログ
	{on off}	on ログを出力する（初期値） off ログを出力しない

コマンド名	logoption server	
タイトル	カテゴリ毎のログをSYSLOGとして出力するかどうかの設定	
説明	カテゴリ毎のログをSYSLOGとして出力するかどうかを設定します。	
書式	logoption server {category} {on off}	
パラメータ	{category}	DoS DoS 攻撃ログ internet_access インターネットアクセスログ firewall ファイアウォールログ access_control アクセスコントロールログ VPN VPNログ
	{on off}	on SYSLOGとして出力する（初期値） off SYSLOGとして出力しない

14. UPnP 設定コマンド

UPnP に関する設定を行います。

コマンド名	upnp mode	
タイトル	UPnP 機能を使用するか否かの設定	
説明	UPnP機能を使用するかどうかを設定します。	
書式	upnp mode {off on}	
パラメータ	{off on}	off UPnP 機能を使用しない on UPnP機能を使用する (初期値)

コマンド名	upnp autodel	
タイトル	UPnP ポート自動削除の設定	
説明	UPnPポート自動削除の時間 (単位: 時間) を設定します。	
書式	upnp autodel {time}	
パラメータ	{time}	0~24 UPnPポート自動削除までの時間 (初期値: 0) ※0の場合、自動削除は行いません

コマンド名	upnp pmdel	
タイトル	UPnP ポートマッピングテーブルの消去	
説明	UPnPポートポートマッピングテーブルを消去します。	
書式	upnp pmdel	
パラメータ	なし	

15. スケジュール設定コマンド

スケジュール機能に関する設定を行います。

コマンド名	schedule mode	
タイトル	スケジュール機能を使用するか否かの設定	
説明	スケジュール機能を使用するかどうかを設定します。	
書式	schedule mode {off on}	
パラメータ	{off on}	off スケジュール機能を使用しない (初期値) on スケジュール機能を使用する

コマンド名	schedule time {week} {item} {start-time} {end-time}	
タイトル	スケジュール機能を使用するか否かの設定	
説明	スケジュール機能を使用するかどうかを設定します。	
書式	schedule mode {off on}	
パラメータ	{week}	曜日 曜日 ... ' sun' , ' mon' , ' tue' , ' wed' , ' thu' , ' fri' , ' sat'
	{item}	1~2 設定番号
	{start-time}	開始時刻 (hh:mm、hhは時間(24時制)、mmは分)
	{end-time}	終了時刻 (hh:mm、hhは時間(24時制)、mmは分)

16. SNMP 設定コマンド

SNMP に関する設定を行います。

コマンド名	snmp mode	
タイトル	SNMP エージェント機能を使用するか否かの設定	
説明	SNMP エージェント機能を使用するかどうかを設定します。	
書式	snmp mode {off on}	
パラメータ	{off on}	off SNMP 機能を使用しない (初期値) on SNMP 機能を使用する

コマンド名	snmp mibdel	
タイトル	SNMP MIB 情報の消去	
説明	SNMP MIB 情報を消去します。	
書式	snmp mibdel	
パラメータ	なし	

コマンド名	snmp syscontact	
タイトル	MIB 変数の syscontact の設定	
説明	MIB 変数の syscontact を設定します。	
書式	snmp syscontact {name}	
パラメータ	{name}	sysContact として登録する名称 (初期値: なし)

コマンド名	snmp sysname	
タイトル	MIB 変数の sysName の設定	
説明	MIB 変数の sysName を設定します。	
書式	snmp sysName {name}	
パラメータ	{name}	sysName として登録する名称 (初期値: なし)

コマンド名	snmp syslocation	
タイトル	MIB 変数の sysLocation の設定	
説明	MIB 変数の sysLocation を設定します。	
書式	snmp sysLocation {name}	
パラメータ	{name}	sysLocation として登録する名称 (初期値: なし)

コマンド名	snmp rocommunity name	
-------	-----------------------	--

タイトル	読み出しのみコミュニティ名の設定	
説明	読み出しのみコミュニティ名の設定をします。	
書式	snmp rocommunity name {name}	
パラメータ	{name}	rocommunity として登録する名称(半角英数字32文字まで) (初期値: public)

コマンド名	snmp rocommunity access	
タイトル	読み出しのみコミュニティへのアクセス許可	
説明	読み出しのみコミュニティへのアクセス許可を設定をします。	
書式	snmp rocommunity access {specified all}	
パラメータ	{specified all}	specified 指定アドレスのみ許可する (初期値) all 全て許可する

コマンド名	snmp rocommunity addrN (N=1~5)	
タイトル	読み出しのみコミュニティへのアクセス許可	
説明	読み出しのみコミュニティへのアクセス許可を設定をします。 ※IP アドレスは、ドットノテーション (XXX.XXX.XXX.XXX の形式) で入力します。	
書式	snmp rocommunity addrN {address} (N=1~5)	
パラメータ	{address}	アクセス許可するホストのIPアドレス (初期値: なし)

コマンド名	snmp rwcommunity name	
タイトル	読み書き可能コミュニティ名の設定	
説明	読み書き可能コミュニティ名の設定をします。	
書式	snmp rwcommunity name {name}	
パラメータ	{name}	rwcommunity として登録する名称(半角英数字32文字まで) (初期値: private)

コマンド名	snmp rwcommunity access	
タイトル	読み書き可能コミュニティへのアクセス許可	
説明	読み書き可能コミュニティへのアクセス許可を設定をします。	
書式	snmp rwcommunity access {specified all}	
パラメータ	{specified all}	specified 指定アドレスのみ許可する (初期値) all 全て許可する

コマンド名	snmp rwcommunity addrN (N=1~5)	
タイトル	読み書き可能コミュニティへのアクセス許可	
説明	読み書き可能コミュニティへのアクセス許可を設定をします。	

	※IP アドレスは、ドットノテーション (XXX.XXX.XXX.XXX の形式) で入力します。	
書式	snmp rwcommunity addrN {address} (N=1~5)	
パラメータ	{address}	アクセス許可するホストのIPアドレス (初期値: なし)

コマンド名	snmp trapN community (N=1、2)	
タイトル	トラップ N 用のコミュニティ名の設定	
説明	トラップ N 用のコミュニティ名の設定をします。	
書式	snmp trapN community {name} (N=1、2)	
パラメータ	{name}	トラップ用のコミュニティの名称(半角英数字32文字まで) (初期値: なし)

コマンド名	snmp trapN host (N=1、2)	
タイトル	トラップ送信先ホストの IP アドレスの設定	
説明	トラップ送信先ホストのIPアドレスの設定をします。 ※IP アドレスは、ドットノテーション (XXX.XXX.XXX.XXX の形式) で入力します。	
書式	snmp trapN host {address} (N=1、2)	
パラメータ	{address}	トラップを送信するホストのIPアドレス (初期値: なし)

コマンド名	snmp trapN inform (N=1、2)	
タイトル	inform の送信の設定	
説明	Informの送信をするか否かの設定をします。	
書式	snmp trapN inform {off on} (N=1、2)	
パラメータ	{off on}	off トラップを送信する (初期値) on informRequestを送信する

コマンド名	snmp trapN start (N=1、2)	
タイトル	start trap の送信の設定	
説明	start trap の送信をするか否かの設定をします。	
書式	snmp trapN start {off on} (N=1、2)	
パラメータ	{off on}	off trap start を送信しない (初期値) on trap start を送信する

コマンド名	snmp trapN linkdown (N=1、2)	
タイトル	linkdown trap の送信の設定	
説明	linkdown trap の送信をするか否かの設定をします。	
書式	snmp trapN linkdown {off on} (N=1、2)	

パラメータ	{off on}	off trap linkdown を送信しない (初期値) on trap linkdown を送信する
-------	----------	--

コマンド名	snmp trapN linkup (N=1、2)	
タイトル	linkup trap の送信の設定	
説明	linkup trap の送信をするか否かの設定をします。	
書式	snmp trapN linkup {off on} (N=1、2)	
パラメータ	{off on}	off trap linkup を送信しない (初期値) on trap linkup を送信する

コマンド名	snmp trapN authfail (N=1、2)	
タイトル	authfail trap の送信の設定	
説明	authfail trap の送信をするか否かの設定をします。	
書式	snmp trapN authfail {off on} (N=1、2)	
パラメータ	{off on}	off trap authfail を送信しない (初期値) on trap authfail を送信する

17. その他コマンド

本製品のステータス情報表示、あるいは回線接続、切断など、設定以外の制御を行います。

なお、これらのコマンドは TELNET、コンソールポートで本製品にアクセスした場合のみ使用可能です。

コマンド名	exit logout
タイトル	現在のセッションの終了
説明	telnetで本製品にアクセスしている場合、本製品との現在のセッションを終了します。
書式	exit logout
パラメータ	なし

コマンド名	help ?
タイトル	コマンド一覧の表示
説明	本製品のコマンドの一覧を表示します。
書式	help ?
パラメータ	なし

コマンド名	history
タイトル	コマンド履歴の表示
説明	本製品に入力されたコマンドの履歴を表示します。
書式	history
パラメータ	なし

コマンド名	reboot
タイトル	本体の再起動
説明	本体を再起動します。
書式	reboot
パラメータ	なし

コマンド名	adjust
タイトル	時刻修正を今すぐ実行
説明	時刻修正の設定に従って、時刻修正をすぐに実行します。

書式	adjust
パラメータ	なし

コマンド名	debug	
タイトル	デバッグモードの設定	
説明	デバッグモードを設定します。	
書式	<pre> debug 6to4 trace {level} debug dhcp trace {level} debug dhcpc trace {level} debug dns trace {level} debug elap trace {level} debug ip rip {level} debug ip route {level} debug ip trace {level} debug ipv6 trace {level} debug ppp trace {level} debug pppoe trace {level} debug snmp trace {level} debug snmp trap {level} debug udp trace {level} </pre>	
パラメータ	{level}	デバッグレベル (半角数字)

コマンド名	connect	
タイトル	相手先へ手動で発信	
説明	相手先に手動で発信します。	
書式	connect {rnumber}	
パラメータ	{rnumber}	0～15 相手先番号 (登録番号#0～#15)

コマンド名	disconnect	
タイトル	相手先との通信を手動で切断	
説明	相手先との通信を手動で切断します。	
書式	disconnect {channel}	

パラメータ	{channel}	all	すべてを切断
		pptp1	PPTP1 チャンネルを切断
		pptp2	PPTP2 チャンネルを切断
		pppoe1	PPPoE1 チャンネルを切断
		pppoe2	PPPoE2 チャンネルを切断
		pppoe3	PPPoE3 チャンネルを切断
		pppoe4	PPPoE4 チャンネルを切断

コマンド名	rmtdisc	
タイトル	相手先指定の切断	
説明	相手先番号を指定して切断を行います	
書式	rmtdisc {remote number}	
パラメータ	{remote number}	相手先番号

コマンド名	erase	
タイトル	設定の消去	
説明	設定を消去します。	
書式	erase {parameter}	

パラメータ	{parameter}	all	すべての設定を消去
		log dos	DoS 攻撃ログを消去
		log firewall	ファイアウォールログを消去
		log inetaccess	インターネット接続ログを消去
		log accesctrl	アクセスコントロールログを消去
		log vpn	VPN ログを消去
		log all	全てのカテゴリのログを消去
		ip	全ての IP 設定を消去
		ipbasic	IP 設定を消去
		ipsecurity	IP セキュリティ設定を消去
		remote [0..15]	相手先設定を消去
		sys	全ての本体設定を消去
		sysbasic	本体設定を消去
		sysconsole	本体コンソールポート設定を消去
		user	ユーザ設定を消去
		userid	ユーザ ID、パスワード設定を消去
		wanether	WAN ポートの設定を消去
		upnp	UPnP 設定を消去
		ipsec [1..50]	IPsec 設定を消去
		ipv6	IPv6 設定を消去
		ipv6 common	IPv6 (共通) 設定を消去
		ipv6 etherN	IPv6 (インターフェース) 設定を消去 (N=1..3)
		ipv6 6to4	IPv6 (6to4) 設定を消去
		mac	MAC アドレスフィルタ設定を消去
		dyip	DynamicDNS 設定を消去
		dmz	DMZ ポート設定を消去
		schedule	スケジュールの消去
		service	登録アプリケーションを消去
		logoption	ログ設定パラメータを消去
		nat	NAT 設定を消去
		firewall	ファイアウォール設定を消去
		internet_l	インターネットアクセス制限設定を消去
urlfilter	URL フィルタ設定を消去		

パラメータ (続き)	{parameter}	certhttps	HTTPS 証明書を消去
	(続き)	certipsec	IPsec 証明書を消去
		accessauth	アクセス権限設定を消去
		snmp	SNMP 設定を消去

コマンド名	No		
タイトル	指定の設定を取り消す		
説明	指定した設定を取り消します。		
書式	no {parameter}		
パラメータ	{parameter}	取り消す設定内容	

コマンド名	nslookup		
タイトル	ドメイン名の解決要求を実行		
説明	ドメイン名の解決要求を実行します。		
書式	nslookup {domain-name address}		
パラメータ	{domain-name address}	ドメイン名、または、IP アドレス	

コマンド名	ping		
タイトル	ICMPエコーの実行		
説明	ICMPエコーを送信します。		
書式	ping {name address}		
パラメータ	{name address}	ホスト名、または、IP アドレス	

コマンド名	ping6		
タイトル	ICMPv6エコーの実行		
説明	ICMPv6エコーを送信します。		
書式	ping6 {address} [interface]		
パラメータ	{address}	IPv6 アドレス	
	{interface}	インターフェース ID ether1 ETHER1 (LANポート) ether2 ETHER2 (WANポート) ether3 ETHER3 (DMZポート) 6to4 6to4	

コマンド名	save
-------	------

タイトル	設定情報の保存
説明	設定情報をフラッシュメモリに保存します。
書式	save
パラメータ	なし

コマンド名	show
タイトル	設定情報の表示
説明	各種設定情報を表示します。
書式	show {parameter}

パラメータ	{parameter}	<p>adjust 時刻修正を最後に行った日時を表示</p> <p>config 設定情報一覧の表示</p> <p>log dos DoS 攻撃ログの表示</p> <p>log firewall ファイアウォールログの表示</p> <p>log inetaccess インターネット接続ログの表示</p> <p>log accessctrl アクセスコントロールログの表示</p> <p>log vpn VPN ログの表示</p> <p>log all 全カテゴリのログの表示</p> <p>ip arp ARP テーブルの表示</p> <p>ip dhcp DHCP 情報の表示</p> <p>ip dns 「AutoDNS」情報の表示</p> <p>ip dos DoS 攻撃防御の状態の表示</p> <p>ip nat NAT 変換キャッシュ情報の表示</p> <p>ip route IP 経路情報の表示</p> <p>ip status IP の状態の表示</p> <p>ip udp UDP の状態の表示</p> <p>ipv6 address IPv6 アドレスの表示</p> <p>ipv6 prefix IPv6 プレフィックスリストの表示</p> <p>ipv6 route IPv6 ルートエントリの表示</p> <p>ipv6 status IPv6 リンク状態の表示</p> <p>mld address MLD アドレスの表示</p> <p>mld status MLD 状態の表示</p> <p>ppp PPP ステータス情報の表示</p> <p>remote list 接続相手先リストの一覧を表示</p> <p>status 接続状況の表示</p> <p>time 本体の日付と時刻の表示</p> <p>uptime 本体稼働時間の表示</p> <p>version ファームウェアバージョンの表示</p> <p>wanether WAN ポート (Ethernet) 情報の表示</p> <p>upnp UPnP 状況の表示</p> <p>ipsec sp IPsec SP の表示</p> <p>ipsec sa IPsec SA の表示</p> <p>dyip DDNS 登録を最後に行った日時を表示</p>
-------	-------------	--

		schedule	スケジュールの表示
		service	登録されたアプリケーションテーブルの表示
		tftp	TFTP 情報の表示
		snmp	SNMP 情報の表示

コマンド名	traceroute		
タイトル	指定アドレスへの経路を調べる		
説明	指定アドレスへの経路を調べる		
書式	traceroute {name address}		
パラメータ	{name address}	ホスト名、または、IP アドレス	

コマンド名	tech-support		
タイトル	機器情報の表示		
説明	各showコマンドで表示される内容を一度に表示します。		
書式	tech-support		
パラメータ	なし		

コマンド名	tftp		
タイトル	TFTPによるファームウェアアップデートを許可するホストアドレスの設定		
説明	TFTPによるファームウェアアップデートを許可するホストのIPアドレスを設定します。 <注意> 本設定はsaveコマンド等によるフラッシュメモリへの保存は行われません。		
書式	tftp host {address}		
パラメータ	{address}	TFTP 送信を行うホストの IP アドレス (初期値 : 空白)	

変更履歴

日付 Release 摘要

2004/10/26 Rel. 1. 00 新規作成

2005/7/4 Rel. 1. 10 ファームウェア1.10 リリースに合わせて修正

2005/7/25 Rel. 1. 20 ファームウェア1.20 リリースに合わせて修正

2005/9/27 Rel. 1. 21 ファームウェア1.21 リリースに合わせて修正 (Release No. の修正のみ)

2006/6/26 Rel. 1. 31 ファームウェア1.31 リリースに合わせて修正